山の音・里の音・海の音

3つのエリアが奏でる美しい階上ノオト

階上のおと NOTE

2024階上町（はしかみちょう）▶町勢要覧

HASHIKAMI TOWN

SUMMARY 階上町の概要

歴史

階上町には縄文時代から奈良・平安時代にかけて、人々の生活痕が確認されています。最古のものは、平内にある滝端遺跡から縄文時代草創期(約1万年前)の爪形文土器と石斧が出土し、そのほか晩期の「膝を抱える土偶」も発掘されています。

神亀元年(724)に僧侶・行基が寺下に應物寺(寺下観音)を創建したあたりがルーツといわれ、古代末期から近世初頭にかけては馬産地として知られる糠部の東の門地域に含まれていました。

中世では文安元年(1444)に琳阿孝寛大和尚が道仏に西光寺を開山し、戦国時代には道仏館の館主・赤松民部が領知して、ほぼ現在の集落の基盤が形成されたといわれています。その後、根城南部氏の領地となり、近世には盛岡藩領を経て八戸藩領に属しています。

近代に入ると、明治4年(1871)の廃藩置県によって八戸県に属し、弘前県、青森県と改変後、明治11年(1878)の郡制施行で三戸郡に編入され、明治22年(1889)の町村制施行によって旧8カ村を合併して階上村となりました。現在の階上町になったのは昭和55年(1980)5月1日の町制施行によるものです。

＊本文参照…20～22・51～58頁

階上町のルーツ・寺下観音

縄文晩期の「膝を抱える土偶」(滝端遺跡出土)

文化財

有形文化財には、寺下遺跡出土骨角器類、陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図、滝端遺跡出土遺物、應物寺三尊像、寺下観音の梵鐘・蛇口伴蔵願文額・文化八年俳諧献額などがあります。

無形民俗文化財(伝統芸能)には、豊作祈願のえんぶり(平内・田代・鳥屋部)、念仏踊り系の赤保内駒踊り・平内鶏舞、山伏神楽系の道仏神楽、盆踊りの西光寺ナニャドヤラなどが伝承されています。

天然記念物には、茨島のトチノキ・蛭子のウツギ・銀杏木窪の大銀杏・平のサイカチなどがあります。

＊本文参照…8～10・20～23頁

イベント

- ●えんぶり…2月17日～20日
- ●寺下観音例大祭…5月第3土・日曜日
- ●はしかみつつじマラソン大会…5月中旬
- ●はしかみ臥牛山まつり…5月中旬
- ●はしかみいちご煮祭り…7月下旬
- ●新そば祭り…10月下旬
- ●町民文化祭…11月上旬

＊本文参照…23・31頁

新そば祭り(わっせ交流センター)

地理・地形

青森県三戸郡の東部にあり、東は太平洋に面し、北西は八戸市、南は岩手県九戸郡軽米町・洋野町に接しています。南端の県境には、標高739・6mの階上岳があり、町域はその北麓に広がる海成段丘の丘陵地が大半を占めて緩やかに海に至っており、山・里・海がコンパクトにバランスよく立地する町です。また、青森県の最東南端に位置するため、県内で最も早く朝日が昇る町としても知られています。

＊本文参照…15頁

日向山から里の街並みと太平洋を望む

里地でのサツマイモの収穫

階上岳石倉展望台の露頭した花崗閃緑岩

気候

気候は太平洋側気候で、夏は偏東風（やませ）の影響で冷涼であり、冬は北東にありながら降雪量が少なく乾燥し、晴天が多いため日照時間も長いのが特徴です。平均気温は11・2度、年間降水量は1200・5㎜になっています。

動植物（代表的なもの）

●海浜植物…アズマギク・ハマハタザオ・ハマエンドウ・ウツボグサ・タツナミソウ・ハマヒルガオ・エゾツルキンバイ・ハマナス・ウミミドリ・ニッコウキスゲ・エゾスカシユリ・エゾフウロ・ナミキソウ・カワラナデシコ・ラセイタソウ・ツリガネニンジン・ハマギク

●野鳥…（留鳥）イソヒヨドリ・オオセグロカモメ（夏鳥）ホオアカ・ウミネコ・ウミアイサ（冬鳥）コクガン・ユリカモメ・シノリガモ

●魚介類…タコ・アイナメ・カレイ・エゾアイナメ（ドンコ）・ウミタナゴ・タラ・チカ・アワビ・ホヤ・ウニ・サバ・キツネメバル・エゾメバル・ウスメバル・クロソイ・スルメイカ・ヒラメ・アジ・イナダ・サケ・ナマコ・フノリ・ワカメ・アカハタ・マツモ

＊本文参照…30頁

「みちのく潮風トレイル」のビューポイント・泊川神社裏手

目次●CONTENTS

【SUMMARY】
階上町の概要 ―― 2

【町長インタビュー】
かぐわしい歴史と新天地を求めて ―― 4
荒谷憲輝（階上町長）
［階上の原風景］階上早生階上そば…6

【階上ランブル】
山の音・里の音・海の音を聞きながら ―― 7
①神秘の巨木めぐり ―― 8
●ズーム／巨木を語ろう全国フォーラム…11
②大蛇まちあるき ―― 12
［階上の原風景］階上灯台…15
③山郷ウォーク ―― 16
●ズーム／三陸復興国立公園指定10周年…19
④寺下観音霊場めぐり ―― 20
［階上の原風景］えんぶり…23

【第5次階上町総合振興計画】
ゆめ みらい 心ときめく ふるさとづくり ―― 24
●ズーム／ウィズコロナと階上町…28
●ズーム／移住・定住・子育て…29
●ズーム／「町の魚」アブラメ…30
［階上の原風景］元祖いちご煮…31

【まちづくり地区計画】
19地区のまちづくり ―― 32

【行政】
未来を創造していく人づくり ―― 36

【議会】
幸せを実感できるまちづくり ―― 37

【マップ】
町内案内／交通アクセス ―― 38

【特産品】
山・里・海が奏でる贈り物 ―― 40

【資料編】
HASHIKAMI TOWN DATA ―― 41

偉人「階上に生きた先人たち」 ―― 58

町長インタビュー

かぐわしい歴史と新天地を求めて

荒谷 憲輝（階上町長）

［令和5年12月13日収録］

スポーツ少年だった頃に学んだ貴重な体験

――町長は小学校の頃は野球部、中学校時代は相撲部で活動するスポーツ少年でした。その思い出をお聞かせください。

私は昭和45年に階上町荒谷地区に生まれました。階上海岸沿いにある大蛇小学校に通い、磯の香りとともに育ちました。その後、大蛇小学校は、令和2年度で閉校し、同じく閉校した小舟渡小学校と共に道仏小学校に統合し、跡地では誘致企業が営業をしています。

当時の小学校の部活動は、男子は野球、女子はミニバスケットボールの二つしかなく、野球部に入ったのですが、トラウマになるような苦い経験をしました。5年生の時の大会で、外野の守備についていた時にエラーをしてしまい、サヨナラ負けになったのです。チームや保護者の方々に申し訳なく、自分の置かれた立場に責任を持つことの大切さを学びました。

道仏中学校では相撲部に入りましたが、相撲は体格差が明らかに出ますので、小さい方だった私は技術を身につける練習を何度も繰り返しました。おかげで、大きな相手にも向かっていく強い精神力を培うことができたと思っています。

自営で地域に根差し政治家の道へ

――町長は高校と専門学校と工業系に進学していますが、卒業後は家業の運送業に従事しています。その後、政治の道を志して、平成27年4月から階上町議会議員を2期務めました。その間、令和元年に八戸地域広域市町村圏事務組合議会議員になり、同2年には同議会副議長に就任しています。この自営の時と、町議時代についてお聞かせください。

私は、大叔父が元町長、父親が元町議会議長という政治家の家系に生まれ、子どもの頃から地域の相談事などの情報を耳にする環境に育ちました。政治家はそれらを解決していくことが求められます。そのためには、話をよく聞くこと、考えることですが、政治はいわば総合職ですから、自分一人ではなく多くの人の協力を得て、ベストにつなげる必要があります。その意味では、自営は厳しい半面、時間的に自分で切り盛りできるので、地域に根差しながら人とのネットワークを築くことができました。その経験値がその後の政治活動に生かされてきたと思います。

また、地方の最大の課題でもある人口減少が進み、現在では全国の市区町村で人口が減少しているといわれていますが、階上町も例外ではありません。その結果、財政事情は厳しさを増してきますので、一自治体では限界があり、広域行政は不可欠です。階上町は、八戸市と岩手県北の隣に立地しているという立地面でのプラス材料があります。さらに歴史・民俗・文化・地形に独自性がありますので、それらを背景に、八戸地域広域市町村圏での役割を果たさなければなりません。

自然豊かな町の特性を生かした新たな行政を目指して

――町長は令和3年12月19日の町長選挙に初当選し、町長に就任してから2年が経過しました。これまでを振り返り、今後、どのような町政を目指しているか、お聞かせください。

町長に立候補したときには、「自然豊かな町の特性を生かし、山とハマを最大限に活用した産業と観光の活性化に努める」ことを訴えましたが、階上町の最大の魅力は、階上岳・階上海岸・巨木などの自然や、寺下観音・えんぶり・階上早生（わせ）階上そば・いちご煮などの資源に恵まれ、山・里・海がバランスよく立地していることです。

そこに多くの地域づくりに関わる組織・団体・有志が、階上の魅力を発信しています。最近は、まちあるきを楽しむ人や、巨木・古木めぐりも増えています。みちのく潮風トレイルではバックパッカーの人たちが目につきますし、そういう方に町の魅力を紹介して、それが階上ファンにつながっていくように一歩ずつやっていければと思います。

町では「第5次階上町総合振興計画」を策定し、長期的かつ総合的に人口減少対策や住民サービス向上のための具体的事業を定め、施策を展開しています。これまで社会情勢を踏まえ、新型コロナウイルス対策や、はしかみ暮らし応援商品券の配布、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金、子育て世帯臨時特別給付金の支給などを進めてきました。

中でも特に、これからの階上町の未来を担う子どもたちを育むための環境づくりが重要と考えており、中学生までの子どもの医療費無償化を高校生も対象とし、子育てや移住・定住への支援策を強化しております。

最高のブランドは「町民の皆さんそのもの」新しい時代を皆さんと共に

――町長は「夢、未来、創造、新しい時代を皆さんと共に」をスローガンに、町政のかじ取りを担ってきました。最後に、町民へのメッセージをお聞かせください。

私は浜で生まれ育ち、波が砕ける音を聞きながら、その恩恵と厳しさを肌身で感じてきました。

また、どこからでも見える階上岳は、時代や人が変わっても不動の姿で鎮座（ちんざ）しており、心に安らぎを与えてくれます。そのほか、階上のブランドは数え上げればきりがないほどです。でも、最高のブランドは「町民の皆さんそのもの」です。

私の趣味はウォーキングで、その最中に出会った人たちとよく語り合いますが、子どもは子どもで低い視線で向き合うと、きちんと返事をしてくれます。そんな温かい階上人気質が好きですね。これからも誇りある町の歴史に感謝し、皆さんの思いを大切にしながら、笑顔と元気と安心を届けられるように、今できる責任を果たしていきたいと思います。

［プロフィール］
荒谷 憲輝（あらや・のりあき）
昭和45年（1970）青森県階上町生まれ。
八戸工業大学第一高等学校、
学校法人北杜学園仙台工科専門学校卒業後、自営業を経て、
平成27年（2015）4月から階上町議会議員を2期務め、
令和3年12月19日の町長選挙に初当選、町長に就任。

階上の原風景

星の降る音

［階上早生階上そば］

そば畑／階上町では古くからそばが栽培されてきたが、
大正7年（1918）には「階上早生（わせ）」と命名され、
そばでは青森県唯一の奨励品種に採用された特産品になっている。

階上岳の麓からそば畑が点在し、
町の原風景の一つになっている。
白いそばの花を見ていると、
星の降る音が聞こえるという人がいた。
それは幼年時の共感覚がよみがえるからで、
音や匂いはときに、懐かしい記憶に結びつく。
個人の記憶が親や家系、風土、
伝統に及んで地域の記憶となったとき、
また新しい歴史が積みあがっていく。
山の音・里の音・海の音…私たちは美しい階上ノオトに育まれ、
現在の歴史を生きている。

＊原風景／心象風景の中で、原体験を想起させるイメージ。
＊共感覚／色聴など一つの刺激に対する感覚と、他種の感覚が同時に生じる現象。

階上ランブル

山の音・里の音・海の音を聞きながら

「ランブル」(ramble)は、少し長い距離の散策を意味し、
ウォーキングより自由なぶらぶら歩きともいえます。
階上町ではこれまで「ウォーキングによる観光振興」を掲げ、
定番の階上岳登山や「みちのく潮風トレイル」をPRしてきましたが、
もっと気軽に参加できる「マイクロツーリズム」に着目。
身近な景色を楽しむ散策コースを掘り起こしています。
ここでは「巨木」「海岸」「山郷」「歴史」をテーマに、
4つのランブルコースを紹介します。

「山郷ウォーク」(P16〜P18)の階上岳ビュースポットで

階上ランブル①
神秘の巨木めぐり

巨木・古木は心のランドマーク

樹木には四季のデザインがあります。春の芽吹き、初夏の新緑、真夏の深緑、秋の紅葉と結実、冬の落葉や樹霜の木花（きばな）など。それが長い時間のデザインを経ると、巨木・古木となって生きる遺跡、地域の生き証人になっていきます。

また、奥深い山間部と違い、階上町の巨木・古木の特徴は民家の庭や農地など、身近な生活空間にあるため、子どもの頃の思い出が詰まった心のランドマークにもなっているのです。

階上売り込み隊主催の「秋の巨木めぐり」

令和5年9月6日と9日に、階上売り込み隊主催による恒例の「秋の巨木めぐり」が開催されました。6日当日は、東北巨木調査研究会副会長の山本光一さんと、階上売り込み隊会長の伊藤武男さん、隊員で環境省自然公園指導員の吉田博史さんをガイド役に、定員の20名が参加しました。

◀「銀杏木窪の大銀杏」の前での記念撮影

上野家の敷地内にある「サワラ」の木肌に触れる参加者

午前10時に貸し切りバスに乗り込み、山本さんからツアーの全体説明を受け、5分後には最初の目的地に到着。午前中に寺下までの8カ所をめぐり、昼食は観音茶屋東門（とうもん）で、名物の「階上早生（わせ）階上そば」を堪能しました。午後の部は、茨島（ばらじま）のトチノキから日吉神社のハリギリまで5カ所をめぐり、2時半には道の駅はしかみに到着。買い物などをして3時に解散しました。

今回の巨木めぐりコースとは別に、正規のモデルコースには東北巨木調査研究会推薦の「神秘の巨木めぐり」14kmコースがあります。これは効率よく歩いて見学できることを考慮したもので、ゆっくりと車で回って1～2時間、歩いては4～5時間のコースです。途中から引き返す10kmコースや、点在する場所をめぐる別コースもあり、必要な場合は階上売り込み隊がガイドします。

昼食は観音茶屋東門で、名物の「階上早生階上そば」を堪能

「平のサイカチ」の前でレクチャーする吉田博史さん

神秘の巨木

❶天当平のアカマツ（道仏字天当平）

三股の枝分かれ部分からさらにたくさんの枝が放射線状に伸び、縄文時代の火焔型土器に似ているので「火炎の松」とも呼ばれています。国内では「美し松」と称される樹形です。また、三股の木は山の神として信仰されています。

天当平のアカマツ
●幹周…3.83m ●樹高…22.20m
●推定樹齢…250年

❷館神社のモミ（道仏字道仏）

中世の道仏館跡の巨木。武家や神職に神聖視されました。館神社の境内には、ほかにもモミやケヤキなどの巨木も見られます。

館神社のモミ
●幹周…6.27m ●樹高…28.00m
●推定樹齢…400年 ●県内最大級

❸上野家のサワラ（道仏字上野窪）

ヒノキの近縁で、よりマイルドな香り。用材としても加工しやすいとのことです。きれいな幹姿で、上部で二股に分かれています。

上野家のサワラ
●幹周…5.30m ●樹高…27.00m
●推定樹齢…500年

❹銀杏木窪の大銀杏（道仏字銀杏木窪）

この大銀杏は雄株で結実しないのですが、木根が乳房のように伸び、「垂乳根の銀杏」とも呼ばれており、傍らの明神小祠の御神木になっています。東日本大震災の影響を受け一部支幹が倒れましたが、再び芽を出して成長しています。

銀杏木窪の大銀杏
●幹周…13.29m ●樹高…27.00m
●推定樹齢…1000年 ●国内最大級／県指定天然記念物

❺寺下のメタセコイア（赤保内字寺下）

日本では約300万年～100万年前まで広く分布しており、和名はアケボノスギです。絶滅したと伝えられる遺存種の一つで、「生きた化石」とも呼ばれます。短い柄を持つ雄花が尾状花序のようなまとまりになっていました。

寺下のメタセコイア
●幹周…3.50m ●樹高…27.00m
●推定樹齢…不明 ●県内最大級

❻寺下観音の大杉（赤保内字寺下）

寺下観音は、糠部三十三観音めぐりの一番札所の由緒を有し、参道から潮山神社の境内にかけて清流付近まで林立する大杉は素性よく、厳粛な空間を演出しています。

寺下観音の大杉
●幹周…4.50m ●樹高…35.00m
●推定樹齢…300年

❼寺下観音のフジ（赤保内字寺下）

鐘撞堂のそばのナラの木に大蛇のように巻きついて迫力満点です。花は淡紫で、花序はフジに比べて短く、「不死」の連想から縁起が良いとされ、古くから和歌に詠まれ、家紋にも使用されました。

寺下観音のフジ
●根周…2.00m ●樹高…25.00m
●推定樹齢…不明

❽龍神の松（赤保内字寺下）

一つの根から幹が左右真横に17m以上伸び、まさに龍が横たわっているかのような珍しいアカマツです。吉田さんによると、クロマツが少し混じっているとのことです。

龍神の松
●幹周…1.52m ●樹高…2.00m
●推定樹齢…300年

❾茨島のトチノキ（赤保内字茨島）

枝を支柱で支えるほどの古木・巨木です。花は6月頃、白い小さな花が咲き、養蜂の貴重な蜜源です。また、10月頃に実がなり、かつては食用や薬用（樹皮も）に使われました。

茨島のトチノキ
●幹周…6.98m ●樹高…28.50m
●推定樹齢…850年
●県内最大級／県指定天然記念物

❿平（たいら）のサイカチ（角柄折字平（つのがらおり））

実のさやは洗剤として活用されていました。豆果（とうか）は生薬で去痰（きょたん）・利尿に、トゲは腫（は）れ物やリウマチに効くそうです。黄色い小さなチョウが飛び交っていましたが、カブトムシもよく樹液を吸いに来るそうです。

平のサイカチ
●幹周…6.40m ●樹高…15.00m
●推定樹齢…800年
●国内最大級／県指定天然記念物

⓫平のオオバボダイジュ（角柄折字平）

名前の通りボダイジュよりも葉が大きく、形状はハート型です。夏には少し甘い香りがするクリーム色の小さな花が咲き、秋には1cmほどの実をつけます。

平のオオバボダイジュ
●幹周…3.02m ●樹高…23.00m
●推定樹齢…不明

⓬柳沢（やなぎさわ）家のカツラ（角柄折字柳平）

葉は円いハート型で、対（つい）になって並ぶのが特徴です。秋に落葉すると甘い綿菓子のような香りがします。カツラは水辺や湧水を好み、柳沢家でも傍らに円筒状の井戸がありました。

柳沢家のカツラ
●幹周…6.72m ●樹高…23.00m ●推定樹齢…不明

⓭柳沢家のアサダ（角柄折字柳平）

同種では国内2位の幹周を持つ巨木で、所有者の話では、幹の中央部に大きな空洞があり、近所の子どもたちと穴に入り、遊んだ思い出があるそうです。カバノキ科に属し、個体数の少ない大変貴重な巨木です。

柳沢家のアサダ
●幹周…4.30m ●樹高…22.00m ●推定樹齢…不明
●国内最大級／町指定天然記念物

⓮日吉神社のハリギリ（晴山沢字中城）

日吉神社の境内にあるハリギリ（別名センノキ）は、同じウコギ科のタラノキの芽とともに春の山菜として珍重され、ケヤキの代用品として建材にも使われました。葉は大きな手のひらのような形から、テングウチワとも呼ばれています。

日吉神社のハリギリ
●幹周…5.02m ●樹高…24.00m
●推定樹齢…不明 ●県内最大級

ズーム／巨木を語ろう全国フォーラム青森・階上大会　幾世代も地域とともに

◆地域の記憶を持つ幸せ

令和5年10月7日と8日にかけて、第34回巨木を語ろう全国フォーラム青森・階上大会が開催されました。このフォーラムは巨木愛好家の任意団体「全国巨樹・巨木林の会」を中心に、昭和63年から毎年、全国の巨木にゆかりのある各地で行われ、階上町では初開催となりました。

7日当日は、「いにしえの巨木を未来につなぐ～階上の海と里山から光を～」をテーマに、基調講演やパネルディスカッションなどが行われました（8日は巨木めぐり）。

主催者挨拶では、荒谷町長から、「階上町の巨木・古木の特徴は民家の庭や農地など、身近な生活空間にあること。それを地域の記憶・生き証人として、住民が愛着を持って大切にしてきたこと」などが話されました。

◆階上の巨木を土地の主役に

その後、全国巨樹・巨木林の会会長の高橋進氏による開会挨拶、来賓挨拶に続き、東京大学大学院准教授の山本清龍氏による基調講演がありました。テーマは「巨樹・巨木が支える風景の継承と地域への誇りの醸成（じょうせい）」で、スライド画面を映しながら、国内外の数々の事例が紹介されました。

その中で、「西欧では古くからの街並みが残るのに対し、日本では景観の新陳代謝が激しく、心に残る原風景が失われがちであること。だからこそ住民が守ってきた階上の巨木は貴重で、単に街並みの背景としてではなく、土地の主役として取り扱いを」という指摘は、多くの共感を得ていました。

◆官民一体になっての仕組みづくりを

パネルディスカッションは、北奥羽自然史研究所所長・高橋晃氏をコーディネーターに、東北巨木調査研究会会長・高渕英夫氏、NPO法人ACTY理事長・町田直子氏、寺下観音管理者・桑原一夫氏、階上売り込み隊会長・伊藤武男氏の4人のパネリストが意見交換をしました。

ここでも自然環境の保全と観光振興の両立は大きな問題で、個人所有者のプライバシーを守りながら、官民が一体になっての更なる仕組みづくりが求められています。

最後に、町内4つの小学校（階上・石鉢・赤保内・道仏）で組織される緑の少年団による大会宣言、荒谷町長から、次回開催地福井県の石山志保大野市長に大会旗が引き継がれ閉会となりましたが、少年団の力強い宣言が未来につながる希望になりました。

基調講演をする 東京大学大学院准教授の山本清龍氏

左から高渕英夫氏、町田直子氏、桑原一夫氏、伊藤武男氏の4人のパネリスト

大会旗を持つ荒谷町長と、次回開催地福井県の石山志保大野市長

町内4つの小学校で組織される緑の少年団による大会宣言

階上ランブル②

大蛇まちあるき

「大蛇（おおじゃ）まちあるき」に参加

階上海岸をエリアとする「まちあるき」としては、①ハマを満喫！　歩でぃ～ばコース（約2・5㎞／90分）②線路くるりん海の幸つまみ食いコース（約2・5㎞／100分）の2コースが設定され、多くの人々が階上の海の景観や恵みを堪能してきました。今回、「大蛇まちあるき」とした散策コースは、ほぼ①と同じで潮の香りを感じられるコースです。

令和5年8月26日の「大蛇まちあるき」参加者は7名で、八戸まち歩きガイド団体「八戸さんぽマイスター」から6名、三戸地域づくり団体「サンノヘエール」から1名。ガイドは、はしかみ観光ネットワーク所属の久保義広さん（階上売り込み隊）です。

❶「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」前で記念撮影

❷左にある石碑が「千年川音松の供養碑」

❸新しく立て直された「小沼大明神」

❹今も水の湧く「小沼の龍神様」

❺「大蛇さざ波歩道橋」で手を振る一行

大蛇駅周辺を歩いて 津波の碑がある旧大蛇小学校跡地へ

大蛇漁港の傍にある「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」前で記念撮影をした一行(❶)は、午前10時、まずは「千年川音松の供養碑」(❷)に。大蛇に生まれた千年川は、八戸藩お抱え力士で江戸相撲の前頭四枚目まで上りましたが、場所中に非業の最期を遂げ、死後、故郷の人々は40カ所もの供養碑を建立したといいます。

10分ほど歩いてJR八戸線の傍にある「小沼大明神」(❸)へ。階上町の明神様は多くが水に関係深く、ここも「小沼の龍神様」と呼ばれ、かつては水の湧く霊泉として遠くからも汲みに来る人々がいたとのことです(❹)。

踏切を渡って進路前方に「大蛇さざ波歩道橋」(❺)があります。上からは町内の四方が望まれ、町が海から徐々に隆起を重ねていった海成段丘の地形であることが分かります。

歩道橋を渡り、左折して無人の大蛇駅(❻)に立ち寄り、旧大蛇小学校跡地に。ここの校庭には昭和8年の「海嘯記念碑」(❼)と、平成23年の「東日本大震災の津波の碑」があり、参加者からも当時の辛い出来事が話されました。

❻無人の大蛇駅。左に海があり、右手には海成段丘が見える

❼旧大蛇小学校跡地にある昭和8年の「海嘯記念碑」

❾釣具店の坂下商店前を通る一行

海辺に下り立ち 追越漁港へ至る往路

海辺に下り立つと、漁船漁業用作業保管施設前にしめなわで飾られた自然石がありました(❽)。これは「庚申塔」で、地元漁師の間では、天気が良くてもしけてくるときには岩肌がぬれるそうで、霊験あらたかな石塔のようでした。

海岸線を南に進み、八幡丸・坂下商店(釣具店❾)と続く〝ハマの魚屋さん〟前を通り、「金毘羅大権現碑」(❿)へ。金毘羅様は海難防止の神として信仰され、香川県琴平町の金刀比羅宮本宮への参詣は、江戸時代後期以降にブームとなりました。大蛇海岸沿いにある金毘羅碑6基は明治以降のものです。この金毘羅様も漁師の信仰があつく、10月のご縁日には幟を立てるそうです。

❽漁船漁業用作業保管施設前の「庚申塔」

❿海難防止の神として信仰される「金毘羅大権現碑」

のどかな海辺の光景を堪能し「ハマの駅あるでぃ～ば」で交流会

追越漁港を往路最終地点とし、この後は復路として出発点までの戻りになります。しばらくはのどかな海辺の風景で、北西の風が吹く10月末から始まる鮭とば・新巻（あらまき）・スルメ・棒鱈（ぼうたら）・干ガレイの干し場（⓫）、堤防脇の昆布干し（⓬）、魚獲り網を持って磯場で涼む親子、ハマナスの花と実（⓭）などが、まちあるきの風趣を堪能させてくれました。

最後に立ち寄ったのは、大蛇漁港前の「接待宗碩（せったいそうせき）の経塚（きょうづか）」と5基の「金毘羅大権現碑」（⓮）。金毘羅さまは前述しましたが、経塚は経典を壺に納めたり、経文を石や瓦に書いて土中に埋めたりした場所です。接待宗碩は、八戸藩主初代から3代に仕えた藩士で信心深く、この経塚では、碑文から海難防止を祈願したことがうかがえるとのことでした。

午前11時30分、出発点の「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」に戻り、大蛇まちあるきは終了しました。一旦、休憩したのち、施設内の研修室で交流会（⓯）が開かれました。

冒頭、ガイドの久保さんからは、「一夜漬けのように調べてきたけど、もっと勉強しなければ」と反省の弁。八戸さんぽマイスターの三浦和壽代表からは、「個性的なガイドで、わかりやすかった」と太鼓判が押され、役場から同行したニコラス・スワンソン主事からは、「ガイドの引き出しの多さに助かりました」との言葉。クイズも出され、海岸線に点在する岩礁の多くにアイヌ語がつけられていることなど、階上の民俗・歴史などがさり気なく紹介されていました。

ガイドの際は、交通面での安全確保のため、なるべく後ろ向きにならないようにワイヤレスマイクスピーカーを使います。階上町全体のPRや地域住民との触れ合いもあり、参加者がまちあるきをより楽しめるよう、様々な工夫がされています。

⓫網で囲まれた魚の干し場

⓬堤防脇の昆布干し

⓮大蛇漁港前の「接待宗碩の経塚」（左の自然石）と5基の「金毘羅大権現碑」

⓯「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」の研修室で交流会

⓭ハマナスの花と実

階上の原風景

光のふるさと

［階上灯台］

朝日と階上灯台

階上町は青森県最東南端に位置するため、
最も早く朝日が昇る“光のふるさと”と言われる。
中でも小舟渡（こみなと）海岸にある白亜の階上灯台は、
朝日を受けて黒々としたシルエットに変わり、息をのむほど美しい。
船舶の航行目標である灯台からのサーチライトは、
海上から見ると、不思議と心が安らぐという。
最近は、灯台めぐりを新たな旅のテーマとする“灯台女子”も
増えてきている。

階上ランブル③
山郷ウォーク

「マイクロツーリズム」の山郷と田園風景お散歩コース

町では令和3年に「マイクロツーリズム」として、八戸工業大学の学生や地域住民の協力を得て、定番の観光コースとは一味違った散策コースを紹介するパンフレットを作成しています。「山郷と田園風景お散歩コース」はそのうちの一つで、令和5年10月22日、パンフレットを参考に山郷ウォークをしてみました。

参加者は、階上町在住者が中心となったウォーキングの会「はしかみYYクラブ」の会長・佐々木隆治さんと、副会長・大友千夏さんをガイドに、階上岳や階上町ファンの4名。順路は平内地区中心域の登切・百目木・鳩・平内・下西・滝端を周回して登切に戻るコースで、所要時間は約90分でした。

それぞれ特色のある4つのエリアを楽しむ

【山郷の景観エリア】（登切・百目木・鳩）

スタート地点となった登切の「わっせ交流センター」（❶）は、平成22年に閉校した登切小学校跡地を利用し、階上早生階上そば（6頁参照）の振興拠点になっています。また、すぐ傍にあるモミの大木（❷）は、旧小学校跡地にあったシンボルでした。

❶「わっせ交流センター」から出発

❷旧小学校跡地にあった「モミの大木」

県道42号を歩いて数分、ちり取りとほうき、カゴを持った地域住民に出会いました。住まいの隣には簡素な造りの倉（❸）が。うかがうと、凶作・災害に備えて地域の米を保管していた倉の名残のようでした。

県道を右折して町道に入り百目木に。町消防団第5分団前を通ると、サイロとギャンブレル屋根（腰折屋根）の牛舎がある畜産農家が見えました（❹）。平内地区は稲作・畑作・酪農・葉タバコなどの複合農業地域です。

やがて「昭和チックな看板」と紹介される看板（❺）が。このあたりにも熟れた妙丹柿の木（❻）があり、農村の一点景として、美観を演出しているかのようでした。

山道に分け入り、国内最大級の巨木「百目木のアズキナシ」（❼）を見学しました。樹形は山の神

❸簡素な造りの倉の前で記念撮影

❹サイロとギャンブレル屋根（腰折屋根）の牛舎がある畜産農家

が宿る三頭木で、秋には梨に似た小豆ほどの赤い実をつけるとのこと。町道に戻って、平内貯水池を右に見て下り坂になると、前方に太平洋が広がっていました。しばらくは起伏のある鳩集落を歩きます。

❺赤地に白抜き文字の「昭和チックな看板」

❻階上町に多い妙丹柿の木

❼「百目木のアズキナシ」
（樹齢約350年/幹周2.5m/樹高25m）

【庚申塔・平内蒼前神社エリア】（平内）

再び県道に合流し、その先のY字路に石塔が3基見えてきます。その中でひときわ大きい自然石は「庚申塔」（❽）で、中国の道教を由来とし、日本の庚申信仰では蚕神ほか多くの神様や仏教の影響もありますが、佐々木さんによれば、これは村境や道に祀られ、外からの悪霊や疫病から守っている道祖神（塞の神）ではないかとのこと。ここから左折して町道に入り、平内エリアを歩きます。

刈り取られたそば畑（❾）の横を通り、坂を上って左にカーブすると展望が大きく開け、第1の「階上岳ビュースポット」に。一休みして記念写真を撮りました。その先にあったのが「平内蒼前神社」と「棺台小屋跡」（❿）で、馬護神を祀る平内蒼前神社は、馬産が盛んだったことを証明するものです。

❽道祖神（塞の神）ではないかという「庚申塔」

❾刈り取られたそば畑の横を通る

【大前牧場・平内のホウノキエリア】（平内）

平内蒼前神社を後にして坂を下ると、窪地に小集落が現れます。そこにはまさしく馬がいて、「大前牧場」と知らされました。飼育されていたのは競走馬のサラブレッドで、その人懐っこさに参加者は大喜び。牧場の背景は第2の「階上岳ビュースポット」が広がり（⓫）、その隣には「蓮の花池」があって、夏に桃色の花が咲き誇るときは桃源郷の趣があるとか。

ちょうど畑仕事をしていた住民に話をうかがうと（⓬）、かつては水に恵まれて人も家も多かったと、懐かしそうでした。大前家には、地内最大級の「ホウノ

❿「平内蒼前神社」の狛犬（こまいぬ）。「棺台小屋跡」は、亡くなった人を埋葬するために運んだ道具の置き場で、今は撤去されている

⓫「大前牧場」と飼育されていたサラブレッド。
その背景に第2の「階上岳ビュースポット」が広がる（令和5年9月1日撮影）

キ」があります。樹形は山の神が宿る三本株立ちで、傍らにその祠がありました（⓭）。

【田園風景・湧き水エリア】（下西・滝端）

木漏れ日の清々しいスギ林を抜けると、眼前に第3の「階上岳ビュースポット」（⓮）が。そこからはススキの穂が風に揺れる、のどかな田園風景が続きます。自然の恵みが多かったのか、この辺には縄文時代草創期の爪形文土器と石斧や、晩期の「膝を抱える土偶」（2頁参照）が出土した滝端遺跡があります。

⓭大前家地所内の「平内のホウノキ」
（樹齢不明/幹周7.65m/樹高20m）と山の神を祀る祠

⓬畑仕事の住民に話をうかがう。
これもマイクロツーリズムの楽しさ

そこへ突然、ダルマ型に刈り込んだ植木が出現（⓯）。「湧き水」が流れる一角にも立ち寄り（⓰）、最後の「十二支をモチーフにした垣根」（⓱）を見学しました。家主さんにうかがってみると、植え込みは祖父の代からの趣味だったようで、かれこれ20年ほど経過しているとか（⓲）。

奇抜なアイデアを楽しむ集落の人々の遊び心に和んだ後は、わっせ交流センターに戻りました。ちょうどこの日は新そば祭りが開催されていて（2頁参照）、参加者も昼食に名物の階上早生階上そばを味わいました。

⓮第3の「階上岳ビュースポット」で記念撮影

⓰「湧き水」は3段に分かれ、オタマジャクシや
ミズカマキリなどが棲息していた

⓯ダルマ型に刈り込んだ植木

⓲「十二支をモチーフにした垣根」の家主さんと、
話を聞く佐々木さん

⓱十二支をモチーフにした垣根

ズーム／三陸復興国立公園指定10周年 ハマの再生に向けて

◆三陸復興国立公園の基本理念

平成23年3月11日の東日本大震災後、環境省は「グリーン復興プロジェクト」を掲げ、東北地方太平洋沿岸の自然公園を再編する「三陸復興国立公園」の取り組みをスタート。陸中海岸国立公園（岩手県久慈市―宮城県気仙沼市）に、八戸市の蕪島、国名勝種差海岸、金浜地区、階上町の階上岳、階上海岸で構成される種差海岸階上岳県立自然公園を編入する形で開園し、令和5年5月24日に10周年を迎えました。

三陸復興国立公園10周年を記念して開催された第16回階上岳横断ウォーク（令和5年10月1日開催）

このプロジェクトの基本理念は、「森・里・川・海のつながりにより育まれてきた自然環境と地域の暮らしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興するもの」とされています。

◆〝飛び地〟の階上町は珍しいケース

プロジェクトのもう一つ、令和元年6月には、八戸市蕪島から福島県松川浦までの沿岸約1000kmに及ぶ「みちのく潮風トレイル」（長距離遊歩道）が全線開通しました。潮風トレイルの階上町ルートは、三陸復興国立公園に指定された階上海岸と階上岳が〝飛び地〟になる全国的にも珍しいケースで、その両方を結ぶルートが設定されたことにより、海―里―山がコンパクトにまとまる階上町の魅力を楽しむことができます。

階上岳8合目にある大開平のつつじ群生地

また、八戸市から宮城県気仙沼市までの約300kmに及ぶ「三陸ジオパーク」は、平成25年9月に認定されました。ジオパークは具体的な見どころの「ジオサイト」で構成されており、階上岳、階上海成段丘、寺下観音燈明堂、寺下の滝が認定されています。

◆10周年記念事業と今後の課題

階上町では、10周年を記念して第16回階上岳横断ウォークの開催や、周知のため「第9回三陸復興国立公園指定記念俳句大会」を実施。入賞作品は、みちのく潮風トレイル沿線の12カ所に句碑として1年間掲示されています。

三陸復興国立公園俳句大会の入賞作品句碑（寺下観音燈明堂入り口付近）

今後の課題としては、国立公園の保護と利用の問題があります。また、管理者不在路線や、ガイド活動を担う市民団体の高齢化・会員数の減少も懸念され、次代を担う子どもたちが自然環境に興味を持つ仕組み作りが求められています。

三陸復興国立公園俳句大会の入賞作品句碑（階上駅前腕木式信号機モニュメントの隣）

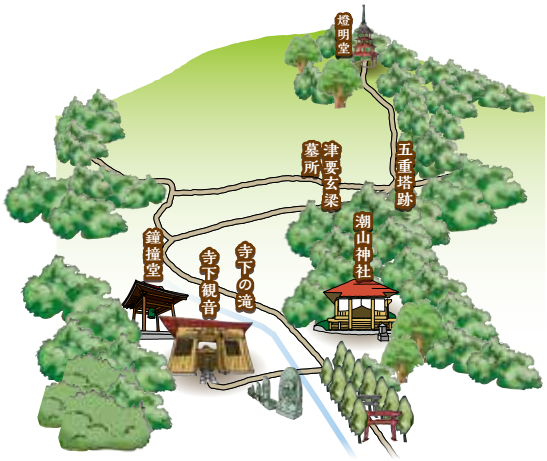
階上ランブル④
寺下観音霊場めぐり

一山が霊場となる祈りの空間

「寺下観音」は、参道の大杉や苔むした境内が象徴するように、自然も含め、一山が歴史の文化的時間が流れる祈りの空間です。

この霊場の、観音堂から日向山山頂の燈明堂に至る散策路は以前から親しまれていましたが、令和3年に寺下観音別当（管理者）で潮山神社宮司の桑原一夫さんと町が協力し、「祈りの道」として再整備されました。

令和5年11月1日に散策した霊場めぐりでは、往路は以前のコースを基本にし、復路は新しく設定されたコースをたどってみました。それを4つのエリアに分けて紹介します。



敬虔な信仰の場と健康なトレッキングと

【寺下観音入り口エリア】

「観音茶屋東門」（❶）を起点に、境内入口に寺下観音資料館があり、その右脇に「祈りの道入口（古道）」と看板がありました。そのまま右に進むと、昔、風が吹くと太鼓の音がしたという「太鼓松」（❷）に出合います。ここから一旦、戻りますが、最初に周囲にある数々の巨木・名木を鑑賞するのもいいでしょう（9頁～10頁参照）。

【潮山神社・寺下観音堂エリア】

伝説では、神亀元年（724）に僧侶・行基が海潮山應物寺として開山し、聖観音座像を本尊として安置。大同年間（806～810）には坂上田村麻呂が再興し、武将の神とされる経津主命を併せて祀ったため、神仏混淆の聖地として尊崇されてきたと伝えられます。

その後、仁治3年（1242）に一山を焼失して衰退しましたが、寛元4年（1246）に江山和尚が焼け跡から観音像を見つけ、観音堂を再建。正徳2年（1712）に寺下観音中興の祖・津要玄梁

❶スタート地点の観音茶屋東門

❷太鼓松。その碑には「對交松」と書かれている

❸仁王門から見た寺下観音堂

❹鐘撞堂。梵鐘は享保4年（1719）、津要和尚が4代目八戸藩主南部広信公に進言し、鋳造された（町指定有形文化財）

和尚（後述）が入山し、堂塔を修復するなどして再興しました。

明治4年（1871）には神仏分離令で観音堂と別れて潮山神社になり、明治7年（1874）に別当の桑原家の願い出により観音堂が再建され、現在の姿ができました。

寺下川に架かる石橋を渡り、すり減った30段の石段を上り詰めると「仁王門」があり、その先に「観音堂」があります（❸）。境内にはほかに「鐘撞堂」（❹）や、「西国（近畿）三十三観音の石仏」（❺）などがありました。観音菩薩が衆生を救うとき、33の姿に変化して33の霊場を巡拝するという信仰に由来していますが、寛保3年（1743）に八戸天聖寺先住の則誉守西上人が設定した「糠部三十三観音霊場めぐり」では、寺下観音を第一札所（巡礼スタートの発願の地）としています。

❺西国（近畿）三十三観音の石仏

❻潮山神社。海潮山應物寺の山号にちなみ命名された

観音堂から下りて「潮山神社」（❻）へ。かすかに燈明が揺れ、落ち葉の舞い散る中に佇む社殿は、寛永3年（1626）に建て直された旧観音堂です。傍に江戸時代頃、岩を積んで造られた「寺下の滝」（❼）がありました。

ここから山道の上りになり、眼下に鈴のようなせせらぎの音が聞こえてきました。左に折れた小道を下ると流れの向う岸に崖があり、10個以上の岩の間に小さな観音像が鎮座する「奥の院」がありました（❽）。

❼寺下の滝

❽奥の院。光り輝く観音様が現れたといわれる

❾迂回路入口

【津要屋敷・五重塔エリア】

山道に戻りしばらく行くと、右手に「燈明堂500m」の看板と鳥居が立つ場所に出合います（❾）。これは迂回路の入口で、そのまま折れずに進むと直接、次の燈明堂エリアになりますの

❿湧き水

⓫津要和尚の墓所。津要堂の説明板の脇に自然石の墓がある

⓬五重塔跡。総高約12mの日本建築史上異色の五重塔だったが、大正2年（1913）の大暴風雨で倒壊した

で、右折して迂回路に入りました。

長い杉木立の山道を上り下りすると、小さな湧き水（⑩）があります。津要和尚も手ずからすくったでしょうか、ここから日向山山頂の燈明堂まで、津要和尚の歴史が続きます。

⑬燈明堂入り口鳥居

津要和尚は、正徳2年（1712）33歳で寺下日向山に草庵（津要庵）を結びました。今は屋敷跡の標柱があるだけですが、その前には延享2年（1745）12月に66歳で入寂した「津要和尚の墓所」（⑪）があります。そこからは急勾配の参道を上り、開けた場所に「五重塔（五楷堂）跡」（⑫）がありました。

⑭弁慶一刀岩。まさに大岩を薙刀で横真一文字に払ったような割れ目がある

【燈明堂エリア】

五重塔を後に進むと、本道と交わる所に「燈明堂入口鳥居」（⑬）があります。ここから山頂の燈明堂まで、丸木を組んだ急傾斜の階段が続きます。160段で右手にあったのが「弁慶一刀岩」（⑭）で、さらに180段で左手に「魔王太士（閻魔大王）が刻まれた磨崖仏」（⑮）が。ここからの小空間は大岩の迷路のようでした。最後に「胎内くぐりの岩」（⑯）に挑戦して階段の道に戻り、終着点の「燈明堂」に。ここには倒壊した五重塔相輪部分もありました（⑰）。

⑮魔王太士が刻まれた磨崖仏

⑯胎内くぐりの岩

燈明堂は享保15年（1730）に八戸藩4代目藩主南部広信公の天然痘快復と舟の洋上安全祈願を兼ねて建立されたもので、海岸から約4㎞、津要和尚が祈りを込めてともした燈明が、海上からも見えたでしょうか。

ここから復路は、同じ順路で湧き水まで戻り、迂回路との出合のY字路を左折して新たに設定された山道をたどります。急な坂道から広葉樹の木洩れ日が差す緩やかな道になり、最初の「太鼓松」に到着。まさに、観世音菩薩の住む山という補陀落世界の道行きでした。

⑰日向山頂上の燈明堂と五重塔相輪部分。右前方に海が見える

階上の原風景

人と大地の神と［えんぶり］

應物寺境内で摺る鳥屋部えんぶり／様々な絵が描かれた色鮮やかな烏帽子は馬の頭を模したもので、かつての馬産地・南部の暮らしが象徴されている（無形民俗文化財・国指定）

八戸地方に伝わる郷土芸能の「えんぶり」は、田をならす農具の「えぶり」を持って摺る（舞う）ことに由来する。来歴には、南部藩主・光行公にあやかる説などもあるが、本来は、その年の豊作を祈る予祝の「田楽」に属する田遊びである。「遊び」にはそもそも神々の舞踊、鎮魂するという意味があるといい、えんぶりで摺り手は、田の神・土の霊を揺り動かすような所作をする。階上町には「平内えんぶり」「田代えんぶり」「鳥屋部えんぶり」があり、毎年2月の厳寒期に、それぞれの地区や應物寺境内で摺るほか、階上町わっせ交流センターで、「早生えんぶり祭り」が開催される。

【第5次階上町総合振興計画】

ゆめ　みらい
心ときめく
ふるさとづくり

＊本文の基本目標①～⑦の左にあるサインは、2015年に国連で採択された17の「持続可能な開発目標」（SDGs）から、それぞれ合致する目標を示したものです。

【基本構想】

時代の潮流を踏まえ、本町における現状と課題を明らかにした上で、まちづくりの将来像、基本方向を示したものであり、それを実現するための分野別基本方針を明記したものです。

また、計画の期間は、令和2年度（西暦2020年）を初年度とし、令和11年度（西暦2029年）を目標年次とする10か年計画とします。

【基本計画】

基本構想に示した将来像の実現を図るための施策を体系化、具体化したもので、部門別に現況と課題、取り組むべき施策の基本方針を示しています。

また、計画期間は令和2年度から令和11年度までですが、本町を取り巻く情勢の変化に柔軟に対応するため、前期5年間、後期5年間の2区分により基本計画の達成を図ります。

【実施計画】

基本計画に定めた施策を計画的に推進するため、基本計画で示した施策の基本方針と施策の体系に従って、主要な事業の実施年度、実施主体、内容、事業費等について明らかにするもので、各年度の予算編成における基本的な指針となります。

また、計画期間は5年間とし、ローリング方式により毎年度見直しを行い、事業の実施を図ります。

基本目標①

快適で安心して暮らせるまちづくり

より良い生活環境の中で快適に安心して暮らすことは、町民共通の願いです。

広域幹線道路をはじめとする道路網の整備促進と、効率的な土地利用の誘導や公共交通の充実などにより、都市機能を高めるとともに、本町の持つ豊かな自然環境と独自の景観を保全しながら、快適性と安心が実感できるまちづくりを進めます。

また、災害に強いライフラインの施設整備と合わせ、消防対策、減災・防災対策の推進を図るなど、安心して生活できる環境づくりに努めます。

国道45号沿いの商業地

消防団の訓練

基本目標②

地域資源をいかした活力あふれる産業づくり

農業をはじめとする全ての産業分野において、時代の変化に対応した活力あふれる産業づくりが求められています。

町民生活に大きな影響を及ぼす産業の活性化を図るため、地域産業の育成・支援と計画的な基盤整備を進めます。また、産業関係団体との連携を強め、相互の役割を理解した上で、新たな地域資源の発掘や特産品の開発など、地域一体となった活力あふれるまちづくりを目指します。

ネギの収穫作業

小舟渡漁港の水揚げ風景

基本目標③

ともに生き支え合う健康・福祉のまちづくり

共働き世帯の増加、少子高齢化などが進む中、町民が健康で互いに助け合い、誰もが安心して暮らすことのできる環境づくりが大きな課題となっています。

健康や福祉活動において複雑、多様化する様々な町民ニーズへの適切な対応により、保健、医療、福祉のスムーズな連携による各種サービスの提供などに努め、全ての町民が健康で生きがいのある生活を送るために、広域的取り組みも含め、ともに支え合う地域社会の構築を目指します。

地域子育て支援センター

健康相談

基本目標④

未来を担う人づくり

少子高齢化や核家族化の進行、さらにスマートフォンやインターネットの普及など、社会状況の急激な変化は、子どもたちに大きな影響を与えています。人と人とが顔を合わせ、触れ合い、心を通わせる機会が少なくなることにより、地域連帯感の希薄化や人を思いやる心の欠如などを招き、地域活動や教育の分野において、様々な問題を引き起こしています。

今後も、学校、家庭、地域が連携を強化し、地域全体で子どもを育て、心が通い合う魅力ある地域づくりにつながるよう、町民の自主的な活動や交流活動の積極的な支援に努め、生き生きとした活力あるまちづくりを目指します。

子どもへの読み聞かせ（町民文化祭）

はしかみつつじマラソン大会

基本目標⑤

協働によるまちづくり

社会や経済の仕組みが刻々と変化を続ける中、町民ニーズも多様化しています。

このような状況においても、まちづくりの主役は常に町民であり、町民一人一人が自らのまちづくりに主体性をもって参加することが重要となります。今後のまちづくりは、町民と行政がパートナーとして連携し、町民の意見を反映させるとともに、町は効率的・効果的な行財政運営に取り組む必要があります。

今後も町民とともにまちづくりに対する意識を一つにし、その目標へ向かって互いに手を取り合い行動することができるよう、協働のまちづくりを更に推進していきます。

町民による伐採作業

町民によるゴミ集積所の修繕作業

基本目標⑥

町民参加によるまちづくり

町民がまちづくりに積極的に参加し、町政に対し意見や要望または提案を行うことが、とても重要となっています。そのためには、町民が町政を正しく理解できるよう、行政は町民に情報を提供する必要があります。

今後は、町民に的確な情報を提供し、町政に対する理解を得るために積極的な広報活動に努めるとともに、町民の意見、要望などをまちづくりに反映させるために、広聴活動の充実に努めます。

また、町民や団体、行政等がそれぞれの役割を認識し、地域間で交流を図り、地域が活性化するよう、自主的なコミュニティ活動を推進します。

明るい社会づくりについて意見を交わす中学生

町民参加による避難所運営訓練

基本目標⑦

開かれた行財政づくり

行政の基本は、町民に、より良いサービスを効率的に提供できるようにすることであり、そのためには、町民の視点に立った行財政運営を行うことが重要です。また、町民ニーズに的確に対応するためには、「基礎自治体」として自主性と責任ある行財政運営を行うことも重要となってきます。

今後は、税収や地方交付税などの財源の確保もより厳しさを増すとみられるため、効率的・効果的な事業の選択、地方債借入残高や経常経費の抑制など、弾力的な財政運営により、財政状況に応じた健全な行政運営に努めます。

そして、多様化・高度化する行政事務に的確に対処できるよう職員の資質向上を図り、自主性と責任ある行財政運営の実現に取り組みます。

役場庁舎

役場1階フロア

ズーム／ウィズコロナと階上町 人権と公共の福祉の再考

◆有事から平時への転換

令和2年1月15日に、国内で新型コロナウイルス感染者が初確認されてから3年目の令和5年5月8日、感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行しました。これは、感染者の重症化率や致死率がインフルエンザ並みに下がったことが大きな理由でした。

これら有事から平時への転換により、飲食や観光業を中心に、経済活性化が期待される「ウィズコロナ」の流れが加速すると予測されましたが、新たな変異株の出現などもあり、医療現場では対策に追われています。

また、コロナ禍が社会にもたらしたものは、リスク管理の問題のみならず「人権と公共の福祉」を再考する機会など、多様な価値観の問題にも波及しました。

◆階上町独自の支援策

新型コロナウイルス感染症対策と経済社会活動を両立させるため、国や県は様々な対策を講じました。階上町においても以下のように町独自の支援策を行いました。

1　所得制限を設けずに、商品券を全町民に配布することで、元気になってもらい、また、町内の消費需要喚起につなげました。さらに、子育て支援として18歳以下の子どもには、特別に支援を行いました。

（1）はしかみ応援振興券

全町民に一律1人当たり5000円の商品券を配布。さらに、子ども（18歳以下）1人当たり3000円を上乗せして、子育て支援を行いました。

2　町商工会からの情報を踏まえ、経済が回る仕組み対策を実施しました。

（1）緊急雇用創出事業

雇用対策として、離職を余儀なくされた方や採用内定を取り消された方など、就労へ影響を受けた方を対象として、町が管理する道路や河川の維持管理を行う民間業者において、作業員の新規雇用を創出しました。

（2）町内事業者支援給付事業

飲食店をはじめ、すべての業種を対象に、新型コロナウイルス感染症による収入減の度合いにかかわらず、事業者の固定経費（家賃・リース料・光熱水費等）に補填（ほてん）するため、一律1事業者当たり15万円を支給しました。

（3）小規模事業者経営改善融資（通称マル経）に係る利子補給事業

小規模事業者が、日本政策金融公庫からの融資の際に支払う利子分（特別利率0・31％）について、補給する制度を制定しました。

3　町内の「介護事業所・障害福祉施設事業所・認定こども園・学童保育」などの医療福祉事業所においても、当時「不織布マスク」は入手困難な状況で、洗濯・滅菌等の処理をして複数回使用している現状を踏まえ、不織布マスクを配布し、町民に継続的に安定した福祉サービスの提供体制を確保しました。

（1）医療福祉事業所への不織布マスク配布事業

町内の医療福祉事業所およびその職員に対し、マスクを1事業所ごとに100枚と職員1人につき100枚を配布しました（事業所数37事業所、職員640人程度）。

4　子育て世帯の支援策として、児童・生徒の保護者負担を軽減しました。

（1）給食費の無償化

小中学生の給食費を、収束するまでの「当面の間」無償にしました。

庁舎内での新型コロナウイルス感染症予防対策

- 来庁者への検温と手指消毒
- 職員のマスク着用の徹底
- スイッチ、ドアノブ等のアルコール除菌
- 就業前、午前10時、正午、午後3時の換気
- 1階トイレのハンドドライヤーの使用禁止、ペーパータオルの設置
- 窓口に透明ビニールシートを設置して飛沫防止対策

（令和５年５月８日までの措置）

ズーム／移住・定住・子育て「いきいき あったか」階上暮らし

◆移住理由のトップは「よい子育て環境」

共同通信社が、令和4年10月に全国の市町村に行った移住支援策に関するアンケートで、新型コロナ禍以降、20～30代の移住者が33％増加したことが分かりました。その移住理由のトップは「よい子育て環境」（40％）でした。次いで「就業」（16％）「テレワーク」（12％）「起業」（8％）「第1次産業で働く」（6％）の順になっています。

さらに効果があった取り組みは、トップが「住居・家賃支援」（39％）、次いで「医療費補助・保育料補助の子育て支援」（26％）「移住体験・関係人口づくり」（11％）「就業・起業支援」（6％）の順でした。

階上町の移住ガイドブック

全国市区町村の9割強で日本人の人口が減少している現在、町では「第5次階上町総合振興計画」を策定しながら、長期的かつ総合的に人口減少対策や住民サービス向上のための具体的事業を定め、移住・定住・子育て支援策として、「いきいき あったか階上移住計画支援事業」などの施策を展開しています。

◆「いきいき あったか階上移住計画支援事業」

八戸圏域（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）内事業所が求める人材と県外のUIJターン就職希望者とのマッチングにより、UIJターン就職の促進と各産業分野における人材不足の解消を図るため、UIJターン希望者の就職活動や住居確保に要する経費、移住のための引越費用、住宅費（家賃）、学用品等購入費の一部を助成するほか、UIJターン希望者を雇用した移住支援企業助成金を交付する制度です。

【助成金の種類】（概要）

①交通費等助成金

＊八戸圏域内事業所での採用面接、住宅確保のための交通費等を助成します。

＊1世帯1名まで、1回当たり3万円以内とし、2回まで助成可能です。

②移住準備助成金

＊引越費用・引越の交通費を助成します。

＊1世帯当たり1回までとし、15万円以内の助成となります。

③住宅費助成金

（高校生以下の子どもがいる世帯）

＊家賃から住居手当・共益費等を控除した額を助成します。

＊月額3万円以内（ひとり親世帯は月額4万円以内）とし、対象期間は12カ月（6カ月ごとに支給）です。

④学用品等購入助成金

（小・中・高校生がいる世帯）

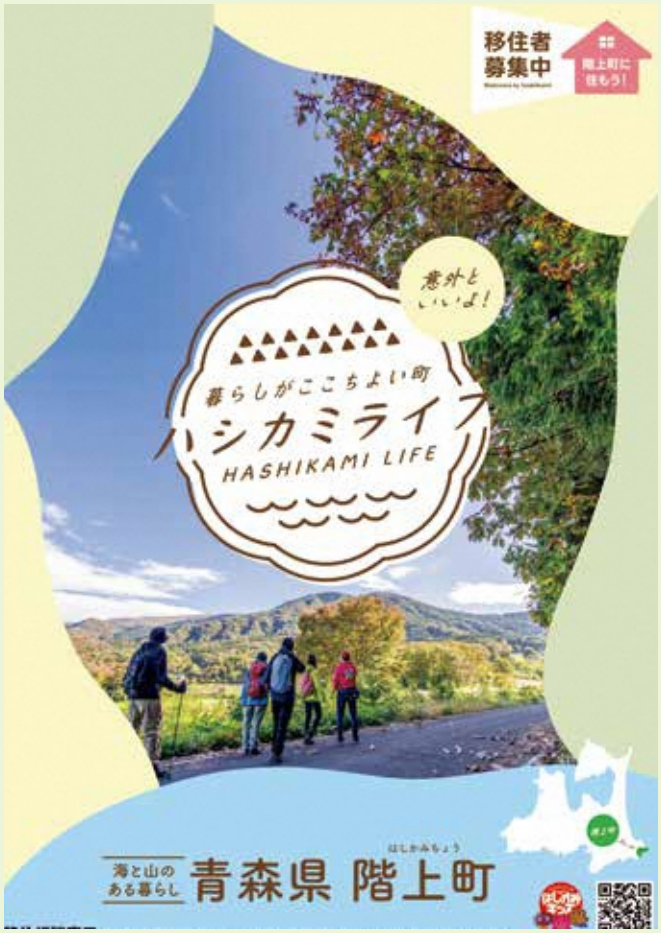
＊児童・生徒の転校に係る学用品等購入費を助成します。

＊小学生から高校生までの児童・生徒、1人当たり一律4万円の助成となります。

⑤移住支援企業助成金

＊UIJターン就職希望者を6カ月以上常時雇用した八戸圏域内事業所へ助成します。

＊UIJターン就職希望者を6カ月以上常時雇用後、1人当たり10万円の助成となります。



移住PRポスター

ズーム／「町の魚」アブラメ　アブラメの魅力を広めて

◆ハマの活性化のシンボル

「アブラメ」は青森県や関西方面で呼ばれる地方名で、正式名称は「アイナメ」です。「鮎魚女」「鮎並」「愛魚女」「相嘗」などの漢字が宛てられています。日本沿岸に広く分布する一般的な魚ですが、「愛魚女」の意味は「愛な魚＝賞味すべき美味な魚」を意味するように、旬（しゅん）の初夏から夏にうまみが増す、味わいのある白身魚です。

階上町では、平成6年に「町の魚」に制定されたアブラメをブランド化しようと、産官学連携で様々な取り組みを実施しています。

八戸水産高校では、平成30年7月24日に町と官学連携の協定を締結。令和2年には地元漁業者や他水産業関係者などが連携し事業を進める「はしかみブランドプロジェクトCompAss（コンパス）」が設立されて、アブラメを使った食べるラー油（あぶラー油）などが開発されました。

ほかに、令和3年には町の魅力を発見・発信することを目的に結成された「はしかみいいとこ広め隊」（町教育委員会若者人財育成事業）には、八戸工大二高と八戸学院大学の11人が参加。令和4年にアブラメの認知度向上のためカルパッチョなどを試作したり、町のシンボルキャラクターの一つ「あぶらめくん」が登場するPR動画やゲーム開発をしたりしています。

また、階上町には県栽培漁業振興協会があり、アブラメ資源の維持向上につながる種苗育成や稚魚生産に努めており、令和4年度には4万匹以上を出荷。国内でも有数の種苗生産施設です。

◆活性化の切り札〝海業（うみぎょう）〟

これらの活動の拠点となっているのが、平成30年5月19日にオープンした「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」。5周年を迎える前年の令和4年には来場者が100万人を突破しており、その効果は絶大でした。施設内にある「レストランMar（マール）」では、太平洋を一望しながら旬の魚介類をあしらった料理を堪能できますが、アブラメのカルパッチョやアブラメ漬け丼は人気メニューです。

地球温暖化による不漁、高齢化と後継者不足、魚食離れなど、水産業を取り巻く環境は厳しいですが、この負の連鎖（れんさ）を変える新しいキーワードに〝海業〟があります。これは地域内の漁業、魚介類の加工・小売業、魚介類の物流業、水産観光業など、海に関わるすべての産業を循環させ、利益を生むシステムに転換しようというものです。

幸い階上町には、三陸復興国立公園・みちのく潮風トレイル・三陸ジオパークに指定された自然景観があり、トレッキングや海釣りなどのアクティビティや、はしかみいちご煮祭りなど、恒例の観光イベントがあります。それに加えて令和5年7月9日には階上アブラメ祭りを開催しました。やがて、〝階上の海の祭り〟として定着することが期待されます。

坂下釣具店に飾られたアブラメの拓本。
防波堤・岩場・船釣りと場所を選ばない釣魚として人気がある

はしかみハマの駅あるでぃ～ばの「レストランMar」で人気メニューの
カルパッチョ（左上）やアブラメ漬け丼

八戸水産高校も参加した階上アブラメ祭り

階上の原風景

風格の海料理

［元祖いちご煮］

元祖いちご煮／海の宝石でもあるウニを、ふんだんに盛り付けることで人気がある

乳白色のスープに沈むウニが
朝もやに霞む野いちごに似ていると言われる「いちご煮」。
ウニとアワビが盛られた汁物は、まさに「大名汁」の風格がある。
階上町の「元祖いちご煮」もまた、
具沢山で圧倒される。
それは、この地方では戦前までコメがあまりとれず、
漁師は実入りの良くなる夏にウニやアワビを大量に煮込んで、
麦や稗と一緒に食べたからという。
7月下旬、階上町で開催される「はしかみいちご煮祭り」は、
町内最大のイベントで、夏の風物詩にもなっている。

まちづくり地区計画

19地区のまちづくり

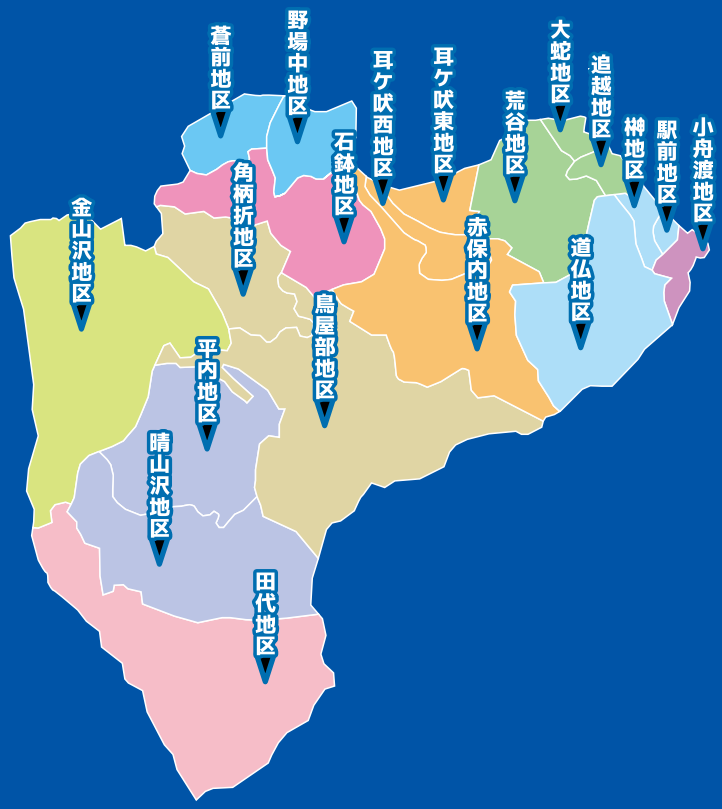
まちづくり計画は、①目的②内容③主体④期間⑤資金、以上の５要素を明確にすることから始まるといわれています。この中で特に③の主体が重要で、人材や人的組織こそが地域の将来の方向を定め、導いていく原動力になります。

しかし、原動力だった自治会・町内会活動が、役員のなり手不足や高齢化、特定の会員しか運営、行事に参加しない、などで運営が難しくなってきました。

その打開策として、情報発信にＩＣＴ（情報通信技術）を活用しオンライン化を図る動きがあり、時代に合わせた新しいコミュニティ活動につながるのではと期待されています。

本町では、平成18年度から同19年度にかけて、町内の19行政区全てにおいてまちづくり地区計画が策定されました。また、同29年度には各行政区において計画の見直しをし、より一層地域の特徴や魅力をいかした「第２次まちづくり地区計画」が策定されました。

以下に、19行政区の概要を紹介しますが、「人口・世帯数」は、すべて令和6年1月31日現在の数値です。



石鉢（いしのはち）地区

あいさつと笑顔で心和（なご）む石鉢

●人口１５１９人／世帯数６６３世帯

●小学校区：石鉢小学校

古くから地域を支えてきた住民と新興住宅の住民とが混在する地域です。

特色ある活動は、「健康で元気なまちづくり」として、「健康は自分で維持し予防する」を基本に、健康づくりのための世代間交流、石鉢ふれあい交流館トレーニングルームの活用などがあります。

蒼前（そうぜん）地区

階上町の玄関口　学生も
お年寄りも住み良い地域に

●人口１８７４人／世帯数１１１０世帯

●小学校区：石鉢小学校

町の玄関口に位置し、学生アパートやグループホームが多く、他地区に比べ一人暮らし世帯が多いのが特徴です。

特色ある活動は、まちづくりの最重点目標が「町内会加入率50％をめざそう！」で、旧住民と新住民との交流の場を増やし、絆を深める活動をしています。

野場中（のばなか）地区

美しい姿で未来に残そう我が地域

●人口１６０４人／世帯数７４４世帯

●小学校区：石鉢小学校

住民の多くが他地区からの転居者で占められ、八戸市のベッドタウン化が進んでいる地区です。

特色ある活動は、「健康・福祉」としてウォーキングの促進をしています。また、「教育・文化」ではふれあい夕市の開催や、ほのぼの交流会での子どもと地域住民との交流などもしています。

角柄折（つのがらおり）地区

野鳥のさえずり　かたくりの彩り
守り続けよう　人のやさしさ

●人口２０８人／世帯数97世帯

●小学校区：階上小学校

少子高齢化が顕著ですが、恵まれた自然環境の中で、人と人とのつながりを大切にしています。

特色ある活動は、「健康・福祉」として、「めざせ！　町内長寿ナンバーワン」をキャッチフレーズに、健診の受診率１００％を目標にしており、地区住民の健康づくりを推進しています。

金山沢地区

未来に残せる里
緑豊かな環境づくり

●人口374人／世帯数174世帯
●小学校区：赤保内小学校（旧金山沢小学校）

ふるさと河川公園は、平成元年に整備され、町内外の人々の憩いの場として利用されています。その恵まれた自然環境の中、様々な活動に取り組んでいます。

特色ある活動は、「教育・文化」として、ふるさと河川公園や金山沢コミュニティーセンターを利用した龍神こだま太鼓の伝承などがあります。

田代地区

共生のオアシスたしろ

●人口154人／世帯数77世帯
●小学校区：赤保内小学校（旧田代小中学校）

少子高齢化、過疎化が進む中、これまでの自治活動のほかにボランティアによる地域づくりに力を入れています。

特色ある活動は、「伝統と交流を大切にする教育文化のまちづくり」として、田代えんぶり・ナニャドヤラの保存継承、神社・祠等、史跡の管理運営、農村交流事業の実施などがあります。

晴山沢地区

歴史と文化をはぐくみ緑豊かな里

●人口138人／世帯数64世帯
●小学校区：赤保内小学校（旧登切小学校）

自然環境に恵まれた田園地帯です。晴山沢西光寺では、江戸時代から俳句会が開かれていたようですが、いまでもその活動が継承されています。

特色ある活動は、「歴史や文化をはぐくむまちづくり」として、西光寺ナニャドヤラ保存会による盆踊りと、地域住民の参加・協力などがあります。

平内地区

豊かな自然と歴史文化が薫る里

●人口126人／世帯数68世帯
●小学校区：赤保内小学校（旧登切小学校）

階上岳の麓に位置した緑豊かな地域で、旧登切小学校の校舎を利用した「わっせ交流センター」が、地域の拠点として利用されています。

特色ある活動は、「歴史と文化の薫るまちづくり」として、国無形民俗文化財の平内鶏舞、国指定重要無形民俗文化財の平内えんぶりの伝統が、世代間交流として受け継がれています。

鳥屋部地区

未来に残そう豊かな自然と伝統文化

●人口318人／世帯数148世帯
●小学校区：階上小学校

階上岳登山の玄関口で、登山道周辺施設の看板設置などが町との協働事業として進められています。

特色ある活動は、「教育・文化」として小学校の行事等を活用しながら、国重要無形民俗文化財の鳥屋部えんぶりを伝承する世代間交流など、地区内の交流活動を通じて人づくりを進めています。

赤保内地区

歴史文化の息づく緑豊かな里づくり

●人口580人／世帯数279世帯
●小学校区：赤保内小学校

赤保内地区は、近年、北へ向かって宅地化による人口増加が著しく、ベッドタウン化が進んでいます。

特色ある活動は、「文化・教育」として寺下観音めぐりや、県指定無形民俗文化財の赤保内駒踊りなどの文化遺産を守りながら、それらを利用した地域活性化に努めています。

耳ケ吠西地区

快適で安全に暮らせるまちづくり

●人口1387人／世帯数565世帯
●小学校区：赤保内小学校

町の中枢機能が集約され、恵まれた公共的住環境と商業的住環境にあって、町内では比較的若い地区です。

特色ある活動は、「文化・教育」として地区の生い立ちなど歴史文化を大切にするとともに、新興住宅との交流を密にし、新たなコミュニティの開発と、自然環境も保全しながら活性化に努めています。

耳ケ吠東地区

創ろう住み良い町に、育てよう協助の和

●人口1378人／世帯数622世帯
●小学校区：赤保内小学校

住民の多くが他地域からの住民で、新興住宅地のベッドタウン化が進んでいます。大型スーパーなどが立ち並び、「道の駅はしかみ」があります。

特色ある活動は、「教育・文化」として、新たな文化的コミュニティの開発と、都市的機能の確立も図り、自然環境にも配慮しながら地域の活性化に努めます。

荒谷地区

未来への継承「里地・里山」と「海」深まる絆

●人口272人／世帯数104世帯
●小学校区：道仏小学校（旧大蛇小学校）

海と緑の自然環境に恵まれています。虚空蔵様の祭りなどで賑わっていた頃を取り戻せるように頑張っています。

特色ある活動は、「教育・文化」として、地区の生い立ちなどの歴史文化を大切にするとともに、宝篋印塔や荒谷虚空蔵菩薩堂など史跡の保存・継承、体験学習、指導者育成などに努めています。

大蛇地区

さざ波のこだまする心和む里づくり

●人口325人／世帯数145世帯
●小学校区：道仏小学校（旧大蛇小学校）

昔から漁業の盛んな地域で、少子高齢化が進む中、盆踊りの開催や大蛇海鳴りソーランの創作など住民総参加の地域づくりをしています。

特色ある活動は、「保健・福祉」として大蛇ほのぼの友の会（仮称）、一人世帯の応援隊による健康啓もうの実施など、人に優しいふれあいのあるまちづくりに努めています。

追越地区

朝日と潮騒に包まれ思いやりの心と笑顔あふれる地域

●人口314人／世帯数143世帯
●小学校区：道仏小学校（旧大蛇小学校）

追越漁港、県栽培漁業センターなど昔から漁業の盛んな地域です。明るく楽しい安心できる地域を目指しています。

特色ある活動は、「皆で助け合い仲良く暮らせる地域」として、新班長制の定着、班内の絆の強化、要援護者支援、近隣ネット、家族介護者交流、朝の挨拶運動、町・学校の行事への参加などがあります。

榊地区

浜で遊び、良き伝統を継承し、元気で暮らせる榊地域

●人口416人／世帯数195世帯
●小学校区：道仏小学校

少子化の傾向は否めず、全体として人口は漸減しています。海と山のどちらにも近いという絶好の位置にあります。

特色ある活動は、「教育・文化」として、榊浜に昭和8年三陸沿岸大津波の時の海嘯記念碑が建立されていますが、それらの観察学習等ができる海辺環境整備をしています。

駅前地区

階上駅とともに90余年いつまでも元気で明るい駅前地区

●人口500人／世帯数244世帯
●小学校区：道仏小学校

駅前は大正13年に八戸線階上駅が開業されてから発達した旧商店街で、JR階上駅は平成17年12月10日に無人駅になりました。

特色ある活動は、「教育・文化」として駅前と階上駅の歴史を学びながら無人駅を守る活動があり、「日本一きれいな無人駅を目指して」地域住民が清掃・美化活動に取り組んでいます。

道仏地区

みんな　元気で　しあわせに楽しいまち（道仏らんど）づくり～五（互）輪で繋ぐやすらぎとロマンの里づくり～

●人口595人／世帯数272世帯
●小学校区：道仏小学校

館神社など名所旧跡や道仏神楽、県指定天然記念物の銀杏木窪の大銀杏をはじめ、館神社のモミ、上野家のサワラなどの巨木があります。

特色ある活動は、「教育・文化」として、あいさつ運動の実践、体験学習の実施、地区の歴史文化の冊子作成、盆踊りや神楽発表会の実施などがあります。

小舟渡（こみなと）地区

夢をかたり　心かよわす　地域づくり

●人口636人／世帯数294世帯
●小学校区：道仏小学校（旧小舟渡小学校）

青森県の最東南端に位置する小舟渡は、県内で一番早く朝日が昇る所として知られています。

特色ある活動は、「地域資源を生かした地域づくり」として、特産化・付加価値販売の推進、観光施設整備、イベント開催などがあり、夏には町の一大イベントである「はしかみいちご煮祭り」が開催されます。

19行政区の「第2次まちづくり計画書」

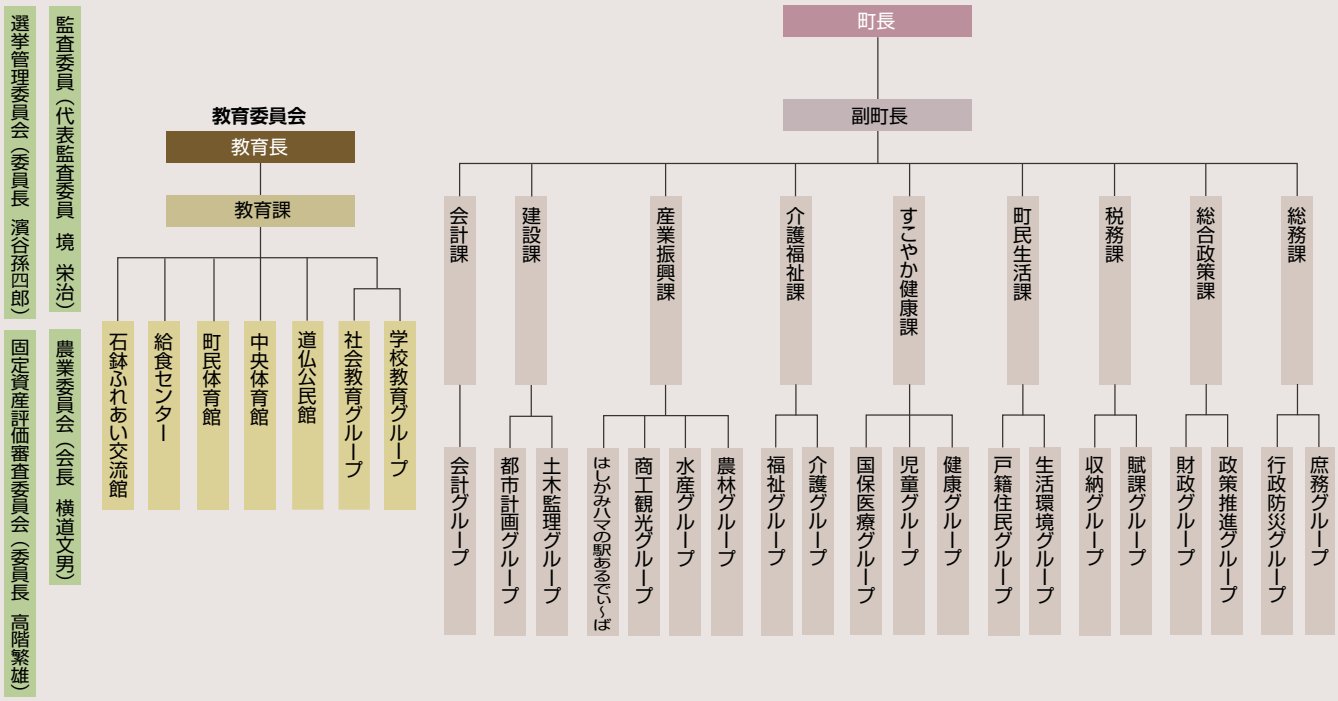
行政――――――未来を創造していく人づくり

副町長 澤田 充

町長 荒谷憲輝

教育長 丸岡 博

行政組織図



議会――――幸せを実感できるまちづくり

議長
長根岩夫

副議長
森　榮吉

議席表

傍聴席側

長根　岩夫 大江　和夫		
小松　雅彦 大下　修	森　榮吉 上道二三男	百目木和俊 林　貢
渡部　高明 土橋美加佐	熊谷　道雄 中島　孝一	下沢　育男 小坂　正年

議長席側

町議会組織図

- 町議会
  - 議長／長根　岩夫
    - 副議長／森　榮吉
    - 議会事務局
    - 特別委員会（必要に応じて）
    - 常任委員会
      - 総務財政常任委員会（定数5人／委員長　上道二三男）
      - 教育民生常任委員会（定数5人／委員長　下沢育男）
      - 産業建設常任委員会（定数4人／委員長　小松雅彦）
    - 議会運営委員会（定数4人／委員長　大江和夫）

三陸復興国立公園
階上海岸
太平洋
(青森県で一番早く
朝日が昇る町)
町の魚アブラメ
至八戸
はしかみ
ハマの駅
●あるでぃ～ば
大蛇漁港
三陸沿岸道路
(八戸久慈自動車道)
青森県八戸市
大蛇駅
アスナ公園
青森県栽培漁業
振興協会
アワビ
ウニ
ハマナス
ニッコウキスゲ
●道の駅はしかみ
JR八戸線
階上駅
泊川神社
小舟渡漁港
道仏公民館
●道仏交流
センター
道仏中
はしかみ
いちご煮祭り
会場
●階上灯台
●階上分署
●階上町役場
●階上交番
●ハートフルプラザ・
はしかみ
1
45
階上IC
西光寺
赤保内小
階上中
42
道仏小
●蛭子のうつぎ(国内最大級)
●給食センター
館神社
いちご煮
至久慈
道仏神楽
茨島の
トチノキ
(推定樹齢
約850年)
赤保内駒踊り
銀杏木窪の大銀杏
(推定樹齢約1000年)
山館前公園
寺下観音
町の鳥うぐいす
町の木けやき
岩手県洋野町
町の花
つつじの群生地
階上岳
町営放牧場
三陸復興国立公園
階上岳
▲739.6m
龍神水
三厩
大湊
大湊線
奥津軽いまべつ
津軽線
北海道新幹線
新青森
小川原湖
野辺地
青森
青い森鉄道線
五所川原
五能線
川部
弘前
七戸十和田
八戸
階上町
八戸自動車道
階上駅
十和田湖
八戸線
奥羽本線
安代JCT
東北新幹線
三陸沿岸道路
久慈
IGRいわて銀河鉄道
東北自動車道
盛岡

町内案内／交通アクセス

はしかみキッズ
かぜ丸
つつじ姫
あぶらめくん
青森県八戸市
青森県階上町
45
種差海岸階上岳 IC
●町民プール
●石鉢ふれあい交流館
●ゆとり町民農園
八戸●カントリークラブ
石鉢小
平のサイカチ●（推定樹齢約800年）
11
221
久慈街道
●ふるさと河川公園
そば畑
卍應物寺
鳥屋部えんぶり
階上小
熊野堂
臥牛の塔●
●フォレストピア階上
42
●森の交流館
●はしかみ臥牛山まつり会場
平内鶏舞
平内えんぶり
日吉神社
西光寺ナニャドヤラ
卍西光寺
●わっせ交流センター
つつじの森キャンプ場
●田代せせらぎ公園西登山口
田代えんぶり

山・里・海が奏でる贈り物

階上町の里山・里海が育んだ四季満載の香りギフトです。

いちご煮缶詰

塩うに

かぜ水

海藻ラーメン

おみそ汁の具

かけくの海藻

階上早生階上そば

そば味噌

ジェラート

そば焼酎早生のめぐみ

どございだ〜　ハマさいだ〜

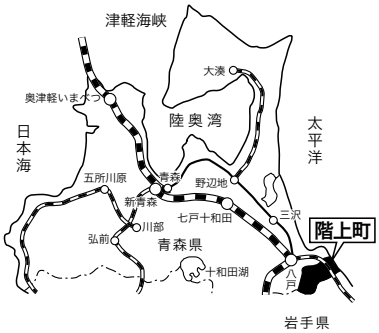
HASHIKAMI TOWN DATA

資料編

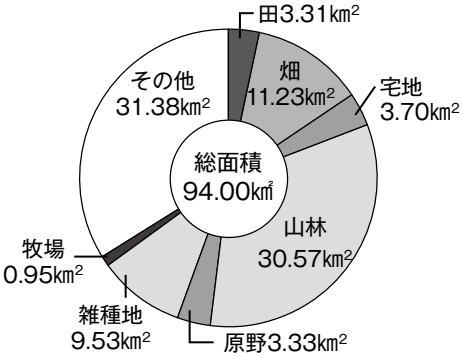
土地・人口・気象

■位　置

町域東端	東経141度41分00秒
西端	東経141度31分08秒
南端	北緯40度21分32秒
北端	北緯40度28分47秒
東西	13,960.056m
南北	13,492.011m
面積	94.00㎢



■地目別土地と面積



（令和5年度土地概要調書より）

■気象概況

区分		降水量	気温（℃）			風速（m/s）		日照時間	最深積雪
		（㎜）	平均	最高	最低	平均	最大	（h）	（cm）
令和元年	2019年	967.0	11.1	34.8	−10.2	5.1	23.1	2051.1	20
2	2020年	1229.0	11.3	35.5	−8.6	4.9	28.9	1741.2	17
3	2021年	1012.5	11.3	33.7	−11.7	5.0	22.7	2006.2	44
4	2022年	1200.5	11.2	34.4	−8.8	4.8	21.4	1972.0	23

（気象庁ホームページより）

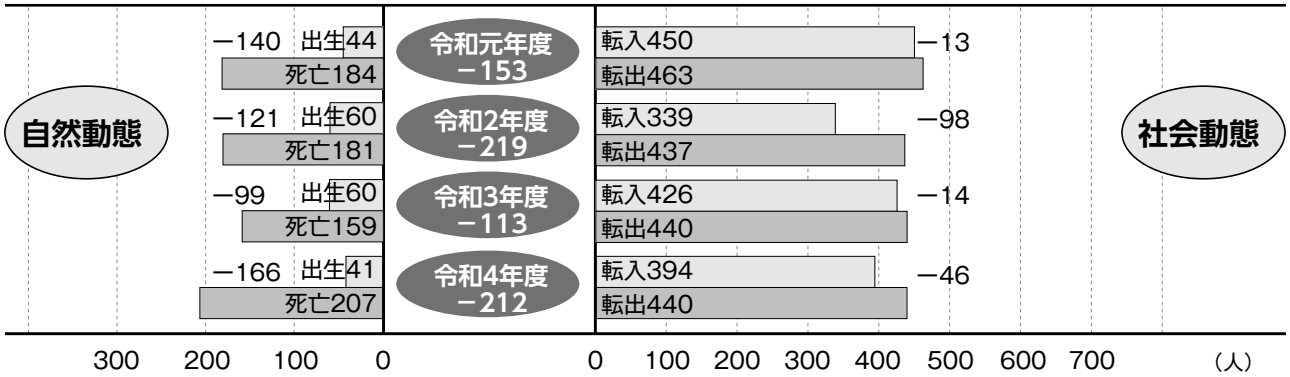
■人口と世帯数の推移

各年3月末日現在（単位：人、戸）

区　分	人　　口			世帯数	1世帯当たり人口
	男	女	計		
令和元年	6,782	6,716	13,498	5,929	2.28
2	6,693	6,649	13,342	5,973	2.23
3	6,598	6,524	13,122	5,979	2.19
4	6,528	6,478	13,006	6,010	2.16

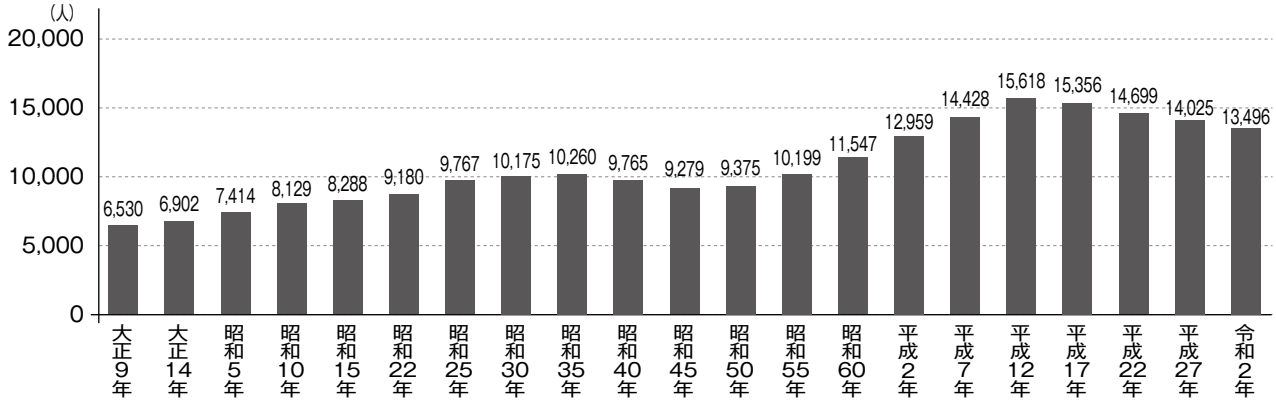
（平成24年7月9日住民基本台帳法の一部改正により外国人を含めた人口）

■人口動態



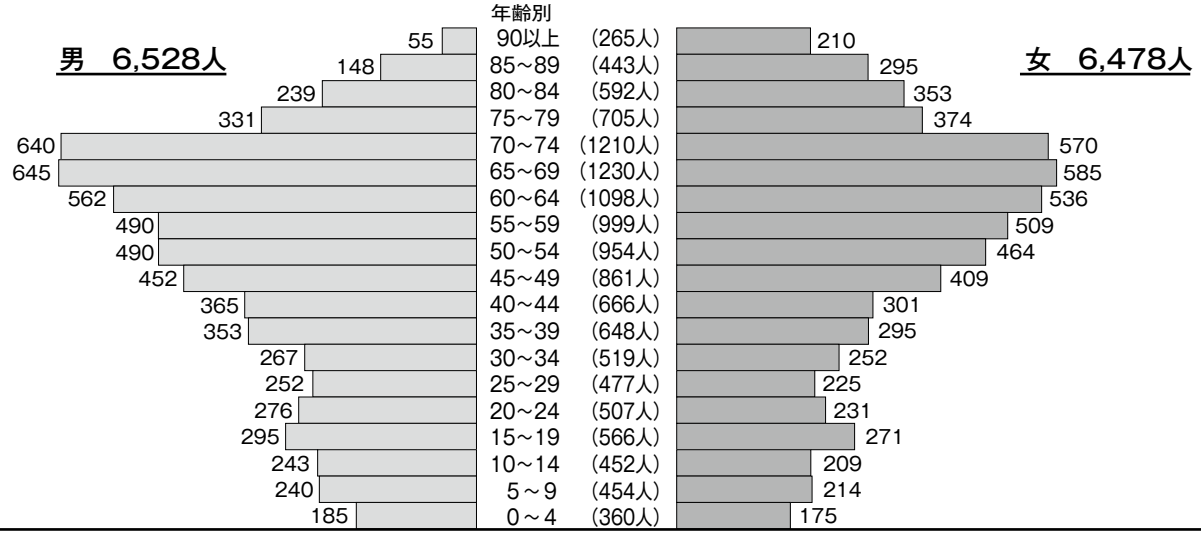
（平成24年7月9日住民基本台帳法の一部改正により外国人を含めた人口）

■人口の移りかわり（国勢調査）



（※昭和20年は国勢調査中止につき、昭和22年臨時調査の数値を掲載）

■年齢階層別人口



（平成24年7月9日住民基本台帳法の一部改正により外国人を含めた人口/住民登録人口/令和４年３月31日現在／単位：人）

産業

■産業別就業者人口の推移

（単位：人）

年次	総数	第一次産業				第二次産業				第三次産業							産業分類不能の産業
		小計	農業	林業	漁業水産業	小計	鉱業	建設業	製造業	小計	卸売小売業	不動産業金融・保険業	水道電気ガス業	運輸通信業	サービス業	公務	
平12	6,725	827	540	8	279	2,529	38	1,366	1,125	3,356	1,192	105	11	502	1,364	182	13
平17	6,835	793	543	7	243	2,132	22	1,147	963	3,845	1,087	135	10	565	1,886	162	65
平22	6,611	647	409	34	204	1,974	20	975	979	3,755	921	168	9	575	1,926	156	235
平27	6,480	563	387	25	151	1,961	16	1,011	934	3,818	929	175	9	565	2,008	132	138
令2	6,439	534	377	29	128	1,857	21	950	886	3,804	861	158	16	570	2,082	117	244

（国勢調査より）

■農業生産の推移

区分／種別	平成30年		令和元年		令和2年		令和3年	
	作付面積（ha）	収穫量（t）	作付面積（ha）	収穫量（t）	作付面積（ha）	収穫量（t）	作付面積（ha）	収穫量（t）
米	79	406	77	411	72	383	68	352

（青森県統計年鑑より）

■専・兼別農家の状況

（単位：戸、人、ha）

区分／年次	農家戸数						農家人口			経営耕地面積				牧草専用地
	総数	自給的農家数	販売農家数	専業農家	兼業農家 第一種	兼業農家 第二種	総数	男	女	総数	田	畑	樹園地	
平成17年	491	221	270	47	33	190	1,139	576	563	525	142	378	5	168
22	482	228	254	62	30	162	1,013	503	510	482	150	327	5	144
27	404	210	194	64	17	113	319	147	172	483	114	365	4	147
令和２年	305	170	135	ー	ー	ー	ー	ー	ー	366	101	261	4	ー

（農家人口については販売農家の世帯員数/農林業センサスより）

「ー」：調査項目削減のためデータなし

■魚種別漁獲状況

（単位：kg、千円）

区分	年次	令和２年 数量	令和２年 金額	令和３年 数量	令和３年 金額	令和４年 数量	令和４年 金額
魚類	たら	151,812	45,327	121,743	27,601	153,329	38,312
	さめ	4,318	414	899	73	40	33
	ばばがれい	2,753	1,684	2,169	1,533	3,537	2,263
	その他かれい	796	345	1,175	404	2,773	1,218
	ひらめ	8,439	5,882	9,629	6,484	8,291	7,353
	さけ	79,251	67,322	34,301	37,704	44,887	40,407
	さくらます	1,251	918	1,126	783	551	421
	あいなめ	1,919	1,135	1,750	1,148	3,126	1,701
	そい	6,047	3,092	11,067	4,798	7,679	4,196
	その他魚類	28,013	8,548	20,063	7,315	20,181	6,712
	小計	284,599	134,667	203,922	87,843	244,394	102,616
貝類	あわび	1,894	18,015	1,346	12,367	866	9,466
	その他貝類	1,297	973	1,324	987	1,905	1,512
	小計	3,191	18,988	2,670	13,354	2,771	10,978
水産動物	するめいか	318,863	198,922	90,392	69,404	139,876	92,678
	たこ	43,826	30,887	33,949	26,896	23,616	24,611
	うに	17,611	26,869	26,580	39,287	30,405	54,354
	ほや	3,502	1,259	1,596	740	3,162	1,121
	小計	383,802	257,937	152,517	136,327	197,059	172,764
藻類	こんぶ	0	0	0	0	0	0
	わかめ	0	0	76	71	241	136
	その他藻類	3,654	1,426	1,737	1,667	2,543	2,250
	小計	3,654	1,426	1,813	1,738	2,784	2,386
	合計	675,246	413,018	360,922	239,262	447,008	288,744

青森県海面漁業に関する調査結果書（属地調査年報）より

■産業細分類別の状況（飲食店を除く）

産業分類 ＼ 項目	事業所数	従業員数（人）	年間商品販売額（百万円）	売場面積（㎡）
織物、衣服、身の回り品小売業	6	14	230	1,242
飲食料品小売業	25	172	2,449	3,142
機械器具小売業	6	10	87	－
各種商品小売業	－	－	－	－
その他小売業	20	139	3,565	10,160
無店舗小売業	2	3	－	－
小売業計	59	338	6,331	14,544
卸売業計	17	53	1,274	－
合計	76	391	7,605	14,544

（令和3年経済センサス-活動調査より）

■誘致企業

（市外局番0178）

企業名	誘致年	業種	住所	電話
階上キユーピー㈱	昭和63年	食品製造	角柄折字新沼舘9－159	88－2011
㈱キユーソー流通システム階上営業所	昭和63年	物流	角柄折字新沼舘9－159	88－4666
八戸炭酸カルシウム工業㈱	平成 3年	石灰製造	角柄折字柳平28－6	88－4831
共立工業㈱	平成 3年	鋼構造物工事･鉄骨工事	道仏字耳ケ吠1－1	88－5050
㈱ダイヤレックス	平成 4年	電気機械･器具製造	蒼前東八丁目6－5	88－3040
伊勢屋金網工業㈱八戸営業所	平成25年	金網製造･販売･施工	蒼前東一丁目9－91	88－3361
かねご製餡㈱大蛇工場	令和 4年	食品加工	道仏字大蛇30－1	22－0065
㈱岩本電機	令和 5年	電気製品･通信機器製造	岩手県洋野町種市13－41－25	0194-65-3930

建設

■道路・橋梁

（令和5年3月31日現在）（単位：m）

区分	路線数	実延長	路線別内訳		橋梁	
			舗装	砂利	橋数	延長
国道	2	16,817	16,817	0	4	49
県道	4	32,957	32,954	3	6	39
合計	6	49,774	49,771	3	10	88

（令和5年3月31日現在）（単位：m）

区分	路線数	実延長	路線別内訳		橋梁	
			舗装	砂利	橋数	延長
1級町道	11	36,497	35,929	568	12	141
2級町道	24	54,031	47,703	6,327	14	195
その他の町道	279	169,473	106,286	63,187	17	218
合計	314	260,001	189,918	70,082	43	554

■町営住宅の状況

団地名	建設年度	構造	戸数
つくしケ丘団地（赤保内字柳沢15－20）	平5	木造平屋	5戸
〃（〃）	〃	〃	10戸
榊山団地（道仏字榊山9－95）	平19	木造平屋（1LDK）	12戸
〃（〃）	〃	〃（2LDK）	15戸
〃（〃）	〃	木造2階（3LDK）	3戸

消防

■消防力の組織と消防施設の現況

（令和5年4月1日現在）

広域消防					自治消防						消防水利		
消防署数	職員数	ポンプ自動車	水槽付ポンプ自動車	救急自動車	消防団数	分団数	団員数	ポンプ自動車	水槽付ポンプ自動車	小型動力ポンプ	消火栓	防火水槽	
												40㎥	40㎥未満
1	18人	1台	1台	1台	1	8	136人	6台	1台	9台	315基	83基	4基

保健・衛生

■国民健康保険加入状況

	総人口		国保加入		加入率		保険税（一般の現年分）		
	世帯数（年度末）	人　員（年度末）	世帯数（年度末）	人　員（年度末）	世帯数	人員	調定額（千円）	収入済額（千円）	収納率
平成30年度	5,929	13,498	2,089	3,244	35.2%	24.0%	351,008	325,943	92.9%
令和元年度	5,973	13,342	2,091	3,213	35.0%	24.1%	339,152	316,602	93.4%
令和２年度	5,979	13,122	2,076	3,183	34.7%	24.3%	331,555	309,934	93.5%
令和３年度	6,010	13,006	2,062	3,130	34.3%	24.1%	328,985	306,927	93.3%

■国民年金（拠出制）適用状況

（単位：人）

年　度　別	被　保　険　者　数				免除者等数
	第１号	任意加入	第３号	合　計	
平成30年度	1,496	13	687	2,196	661
令和元年度	1,390	12	641	2,043	554
令和２年度	1,334	16	594	1,944	595
令和３年度	1,319	20	580	1,919	598

（年度末現在）

■要介護認定者数の推移

（単位：人）

要　介　護　度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	人　数	人　数	人　数	人　数
要　支　援　1	13	12	19	19
要　支　援　2	29	31	32	31
要　介　護　1	134	127	140	139
要　介　護　2	158	149	137	147
要　介　護　3	111	108	108	112
要　介　護　4	97	107	96	104
要　介　護　5	83	82	86	96
合　　計	625	616	618	648

（各年度末人数）

■主要死因別死亡者数

（単位：人）

項目／年次	悪　性新生物	脳血管疾　患	心疾患	肺　炎	老　衰	自　殺	その他	計
平成30年	45	14	19	8	20	2	48	156
令和元年	62	15	28	11	14	1	54	185
令和２年	46	17	30	19	14	2	64	192
令和３年	37	17	16	15	14	3	51	153

（青森県保健統計年報：県ホームページより）

議会

■歴代議長

歴代	氏　名	在任期間
初代	根岸清人	昭22. 5 ～昭26. 4.29
2	上野安太郎	昭26. 5. 7～昭30. 4.29
3	桑原一郎	昭30. 5.10～昭34. 4.29
4	松倉耕造	昭34. 5.18～昭38. 4.29
5	中田時安	昭38. 5.15～昭42. 4.29
6	大江八郎	昭42. 5.12～昭46. 4.29
7	上野正藏	昭46. 5. 6～昭58. 3.29
8	坂本清之助	昭58. 5. 9～昭62. 9.15
9	荒谷剛生	昭62.10. 1～平 2. 7.23
10	野沢和也	平 2. 7.23～平 3. 4.29
11	宗前勝雄	平 3. 5.10～平 7. 4.29
12	前田常男	平 7. 5.17～平11. 4.29
13	荒道鶴造	平11. 5.14～平15. 4.29
14	桑原一夫	平15. 5. 6～平19. 4.29
15	松森　蒿	平19. 5.11～平23. 4.29
16	木村勝彦	平23. 5.12～平27. 4.29
17	山田惠治	平27. 5.11～平31. 4.29
18	林　貢	令元. 5.13～令 4. 3.16
19	百目木和俊	令 4. 3.16～令 5. 4.29
20	長根岩夫	令 5. 5.12～現　在

■歴代副議長

歴代	氏　名	在任期間
初代	盛　常丸	昭22. 5 ～昭26. 4.29
2	桑原一郎	昭26. 5. 7～昭30. 4.29
3	大江八郎	昭30. 5.10～昭34. 4.29
4	北城善衛	昭34. 5.18～昭38. 4.29
5	小松　清	昭38. 5.15～昭42. 4.29
6	正部家淑郎	昭42. 5.12～昭46. 4.29
7	柳沢与兵衛	昭46. 5. 6～昭50. 4.29
8	荻ノ沢助右衛門	昭50. 5. 8～昭54. 4.29
9	大前武雄	昭54. 5. 1～昭58. 4.29
10	下野岩男	昭58. 5. 9～昭62. 4.29
11	浜谷照雄	昭62. 5.23～昭62. 9.12
12	荒谷剛生	昭62. 9.16～昭62. 9.30
13	金沢啓一	昭62.10. 1～平 3. 4.29
14	山田昭治	平 3. 5.10～平 7. 4.29
15	浜谷豊美	平 7. 5.17～平11. 4.29
16	平戸茂雄	平11. 5.14～平15. 4.29
17	畑中弘實	平15. 5. 6～平19. 4.29
18	土橋信夫	平19. 5.11～平23. 4.29
19	加藤　祐	平23. 5.12～平27. 4.29
20	畑中弘實	平27. 5.11～平31. 4.29
21	松尾國治	令元. 5.13～令 5. 4.29
22	森　榮吉	令 5. 5.12～現　在

■町議会議員名簿

（◎委員長、○副委員長）

議席番号	氏　名	所属委員会
1	土橋美加佐	教育民生
2	渡部髙明	総務財政
3	中島孝一	産業建設
4	熊谷道雄	教育民生
5	小坂正年	○産業建設
6	下沢育男	◎教育民生
7	大下　修	総務財政
8	小松雅彦	◎産業建設
9	上道二三男	◎総務財政
10	森　榮吉	総務財政
11	林　貢	産業建設
12	百目木和俊	○教育民生
13	大江和夫	○総務財政
14	長根岩夫	教育民生

（令和5年5月12日現在）

行政

■歴代村長及び町長

歴代	氏　名	在任期間
初代	盛城勝三	明22. 6.22～明30. 6.25
2	小幡茂周	明30. 6.26～明35. 6.10
3	菊池勝章	明35. 6.11～明39. 6. 6
4	正部家利三郎	明39. 6.11～大 4. 8.24
5	正部家伊太郎	大 4. 9.12～大 7. 5. 8
6	久保　節	大 7. 6. 7～大10. 3.16
7	中田岩太郎	大10. 3.17～大14. 3.16
8	野沢三蔵	大14. 4. 7～昭 3. 5.20
9	柳沢豊吉	昭 3. 5.21～昭 7. 5.20
10	川村末吉	昭 7. 5.28～昭19. 5.27
11	浜谷辰之助	昭19. 6.13～昭21.11.14
12	茨島豊蔵	昭22. 4. 7～昭30. 3.22
13	中田清助	昭30. 5. 1～昭46. 4.29
14	荒谷定蔵	昭46. 4.30～昭58. 4.29
15	正部家佑介	昭58. 4.30～昭62. 4.29
16	桑原三津夫	昭62. 4.30～平元.11.21
17	正部家佑介	平元.12.24～平13.12.23
18	上山博一	平13.12.24～平17.12.23
19	浜谷豊美	平17.12.24～令 3.12.23
20	荒谷憲輝	令 3.12.24～現　在

■歴代助役及び副町長

歴代	氏　名	在任期間
初代	菊池勝章	明22. 6.22～明35. 6.10
2	正部家利三郎	明35. 7.25～明39. 6. 6
3	角田勇亀	明39. 7.19～大 2. 6.24
4	正部家米三郎	大 2. 6.25～大 3. 8.17
5	渡部源三	大 3. 8.18～大 6. 4.12
6	大芦梧楼	大 6. 4.13～大 7. 5. 2
7	久保　節	大 7. 5. 3～大 7. 6. 6
8	伊藤正純	大 7. 6.10～大14.12.20
9	稲葉萬蔵	大14.12.21～昭 2. 5.30
10	小幡茂信	昭 2. 5.31～昭14. 4.30
11	松倉清蔵	昭14. 5. 1～昭22. 4.30
12	柳沢熊次郎	昭22. 5. 1～昭34. 4.30
13	中村正一	昭34. 6.14～昭46. 9.19
14	中田時安	昭46.10. 1～昭58. 4.29
15	出町　茂	平元. 4. 1～平 4. 3.31
16	根岸勇蔵	平 4. 4.10～平 8. 4. 9
17	中村禮一郎	平 8. 4.22～平12. 4.21
18	笹山一夫	平14. 1.15～平17.12.23
19	高谷清孝	平18. 4. 1～平21. 3.31
20	久保和子	平22. 1.25～平27. 3.24
21	沼沢範雄	平27. 4. 1～令 3.12.23
22	澤田　充	令 4. 6.13～現　在

教育・文化

■歴代教育委員長

歴代	氏名	在任期間
初代	根岸清人	昭31.10. 1～昭35. 3.22
2	山田恵造	昭35. 3.30～昭38. 4.10
3	橋本勇	昭38. 5.13～昭54. 9.30
4	根岸典男	昭54.10.11～昭56. 1. 9
5	堰合庄一郎	昭56. 1.21～昭59. 9.30
6	上平清	昭59.10.18～昭60. 9.30
7	上沢勝司	昭60.10. 1～平 6.10.30
8	松川富男	平 6.12.20～平 8. 3. 1
9	小沢勝司	平 8. 3.21～平16. 9.30
10	濱浦清志	平16.10. 1～平20. 6.22
11	熊谷道雄	平20. 6.23～平27. 3.31

（法律改正に伴い委員長職は廃止）

■歴代教育長

歴代	氏名	在任期間
初代	柳沢熊次郎（助役兼務）	昭26. 4. 1～昭28. 3.31
2	中田清助（校長兼務）	昭28. 4. 1～昭30. 3.31
3	柳沢熊次郎（助役兼務）	昭31.10. 1～昭32. 3.28
4	渡部鎮	昭32. 3.29～昭33. 9.27
5	小松定吉	昭33.10. 1～昭34. 5.23
6	柳沢熊次郎	昭34. 7. 9～昭39. 9.18
7	辻良正	昭39.10. 1～昭44. 3.31
8	中田時安	昭44. 5. 1～昭46. 9.30
9	梅津武次郎	昭46.11. 1～昭55. 6.30
10	小松福蔵	昭55. 7. 1～昭61. 9.30
11	大釜安也	昭61.12.20～平10.12.12
12	山本雅教	平11. 1. 8～平16.10. 1
13	村上富士夫	平17. 4. 1～平23. 1. 9
14	川浪孝雄	平23. 3.18～平27. 3.17
15	川浪孝雄	平27. 4. 1～平31. 3.31
16	丸岡博	平31. 4. 1～現在

■小中学校の状況

学校名＼区分	創立年月日	学級数	教職員数	児童生徒数		
				男	女	計
階上小	明 8.10.30	4	9	9	2	11
石鉢小	昭25. 3.31	10	24	110	98	208
赤保内小	大12. 3.27	11	24	119	100	219
道仏小	明 7. 9.13	8	17	41	50	91
小学校計		33	74	279	250	529
階上中	昭22. 4.21	10	29	104	101	205
道仏中	昭22. 4.21	5	14	30	17	47
中学校計		15	43	134	118	252
合計		48	117	413	368	781

◇登切小　（明 7.1.1創立）平成22年3月31日閉校　◇大蛇小　（明35.4. 9創立）令和3年3月31日閉校（令和5年5月1日現在）
◇金山沢小（大13.7.7創立）平成23年3月31日閉校　◇小舟渡小（明35.4.13創立）令和3年3月31日閉校

■指定文化財一覧

指定	種別		名称	指定年月日	所在地
国	重要無形民俗文化財	芸能	平内えんぶり	昭和54年 2月 3日	平内地区
	〃	〃	田代えんぶり	〃	田代地区
	〃	〃	鳥屋部えんぶり	〃	鳥屋部地区
県	県重宝	考古	寺下遺跡出土骨角器類141点	令和 3年 4月 9日	道仏字天当平1－87
	無形民俗文化財	芸能	鶏舞	昭和34年10月 6日	平内地区
	〃	〃	南部駒踊	昭和36年10月 6日	赤保内地区
	記念物	天然記念物	茨島のトチノキ	昭和30年 1月 7日	赤保内字茨島2
	〃	〃	蛭子のうつぎ	昭和31年 5月14日	赤保内字蛭子4－2
	〃	〃	銀杏木窪の大銀杏	平成30年 4月 9日	道仏字銀杏木窪
	〃	〃	平のサイカチ	〃	角柄折字平3
町	有形文化財	額	蛇口胤年願主　安政４年願文額	平成20年 3月21日	赤保内字寺下8
	〃	額	星風亭白虎願主　文化８年俳諧献額	〃	〃
	〃	額	未風願主　文政元年俳諧献額	〃	〃
	〃	額	根城屋与五郎願主　天保14年俳諧献額	〃	〃
	〃	額	常丸願主　嘉永２年俳諧献額	〃	〃
	〃	工芸	梵鐘	〃	〃
	〃	彫刻	三尊像	〃	角柄折字蕨9－3
	〃	考古	寺下遺跡出土遺物	〃	道仏字天当平1－87
	〃	考古	滝端遺跡出土遺物	〃	〃
	〃	史料	陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図	平成23年 3月24日	〃
	〃	〃	寺下久右衛門八戸縣用途金献納文書	平成29年 3月27日	赤保内字寺下8
	〃	〃	天保百姓一揆書留	平成31年 3月27日	〃
	〃	史跡	明治二十九年「海嘯死亡者之碑」	平成29年 3月27日	道仏字廿一
	〃	〃	明和八年「大蛇海岸の海嘯記念碑」	〃	道仏字大蛇30－1
	〃	建造物	応物寺山門	令和 5年 3月27日	角柄折字蕨9－3
	無形民俗文化財	芸能	道仏神楽	平成20年 3月21日	道仏地区
	〃	〃	西光寺ナニャドヤラ	〃	晴山沢地区
	記念物	天然記念物	柳沢家のアサダ	平成29年 3月27日	角柄折字柳平9

財政

■一般会計歳入決算額の推移

（単位：千円）

区分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
自主財源	町税	1,169,231	1,170,670	1,134,619	1,142,120
	分担金・負担金	8,260	5,511	4,758	2,602
	使用料・手数料など	44,066	36,946	45,277	41,360
	繰入金	336,847	53,808	17,209	5,872
	繰越金	104,010	166,459	90,653	141,410
	諸収入	175,817	135,301	123,800	125,487
	小計	1,838,231	1,568,695	1,416,316	1,458,851
依存財源	地方譲与税	88,170	93,377	92,227	87,336
	地方消費税交付金	218,226	273,126	298,234	308,996
	その他の交付金	51,229	41,248	55,159	47,683
	地方交付税	2,260,539	2,320,694	2,593,838	2,588,106
	国庫支出金	695,835	2,622,260	1,359,321	1,181,739
	県支出金	488,424	565,773	467,059	562,131
	町債	260,900	482,800	360,700	260,800
	小計	4,063,323	6,399,278	5,226,538	5,036,791
合計		5,901,554	7,967,973	6,642,854	6,495,642

■一般会計歳出決算額の推移

[目的別]

（単位：千円）

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
議会費	84,129	82,930	86,178	86,245
総務費	1,022,509	2,524,255	1,002,871	1,138,149
民生費	1,658,381	1,846,356	2,037,740	1,826,540
衛生費	330,025	320,315	478,936	518,272
農林水産業費	324,374	340,853	269,272	219,188
商工費	36,602	194,843	51,329	205,736
土木費	603,952	622,365	689,752	625,521
消防費	25,034	37,148	113,950	37,984
教育費	542,904	729,660	508,359	607,311
災害復旧費	22,318	67,155	1,505	27
公債費	784,203	760,985	741,268	676,402
諸支出金	100,664	200,455	370,285	250,228
合計	5,535,095	7,727,320	6,351,445	6,191,603

■特別会計歳出決算額の推移

（単位：千円）

年度／区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
国民健康保険	1,529,767	△ 0.6%	1,489,019	△ 2.7%	1,550,652	4.1%	1,498,893	△ 3.3%
漁業集落排水事業	43,242	6.7%	52,783	22.1%	42,954	△ 18.6%	47,836	11.4%
介護保険	1,323,207	3.4%	1,323,872	0.1%	1,352,028	2.1%	1,335,062	△ 1.3%
公共下水道事業	320,401	4.9%	282,554	△ 11.8%	326,203	15.4%	272,125	△ 16.6%
後期高齢者医療	119,900	2.1%	145,575	21.4%	149,143	2.5%	164,377	10.2%
歳出合計	3,336,517		3,293,803		3,420,980		3,318,293	

選挙

■選挙の執行状況

選挙名	執行年月日	投票当日の有権者数	投票者数	投票率
参議院議員通常選挙	令和元年 7月21日	11,748	4,813	40.97%
衆議院議員総選挙	令和３年10月31日	11,422	5,841	51.14%
階上町長選挙	令和３年12月19日	11,320	6,230	55.04%
階上町議会議員補欠選挙	令和３年12月19日	11,320	6,230	55.04%
参議院議員通常選挙	令和４年 7月10日	11,376	5,489	48.25%
青森県議会議員一般選挙	令和５年 4月 9日	11,102	4,227	38.07%
階上町議会議員一般選挙	令和５年 4月23日	11,092	6,083	54.84%
青森県知事選挙	令和５年 6月 4日	11,099	5,435	48.97%

主要施設一覧

（市外局番　0178）

役場施設		
階上町役場	道仏字天当平1-87	88-2111
学校給食センター	赤保内字蛭子11-55	80-1194
ハートフルプラザ・はしかみ	道仏字天当平1-182	88-2522
道仏公民館	道仏字横沢15-4	89-2110
道仏交流センター	道仏字横沢15-4	87-3322
民俗資料収集館	赤保内字耳ケ吠6-2	88-4193
石鉢ふれあい交流館	蒼前東七丁目9-4	80-1671
町民プール	蒼前東七丁目9-4	80-1671
中央体育館	鳥屋部字狐平8	88-4084
町民体育館	道仏字天当平1-150	88-2821
森の交流館	鳥屋部字行人17-2	88-4588

小・中学校		
階上小学校	鳥屋部字大鶴音1-2	88-3122
石鉢小学校	角柄折字石鉢14-2	88-2703
赤保内小学校	赤保内字耳ケ吠6-1	88-2019
道仏小学校	道仏字外窪21-1	89-2015
階上中学校	赤保内字柳沢15-2	88-2018
道仏中学校	道仏字蓬窪4-7	89-2121

保育園・認定こども園		
道仏保育園	道仏字向17-3	89-2210
認定こども園 階上保育園	赤保内字柳沢15-346	38-3920
認定こども園 石鉢保育園	角柄折字柳下6-15	88-3621
認定こども園 はまゆりこども園	道仏字天当平1-327	88-2101

産業・観光関係施設		
フォレストピア階上	鳥屋部字大柿1-2	88-4449
わっせ交流センター	平内字上道1-1	88-2709
道の駅はしかみ	道仏字耳ケ吠3-3	88-1800
はしかみハマの駅あるでぃ～ば	道仏字大蛇203-208	38-3166

警察・消防		
八戸警察署階上交番	道仏字天当平1-357	88-2022
八戸東消防署階上分署	道仏字耳ケ吠31-3	88-2105

その他		
階上町社会福祉協議会	道仏字天当平1-182	88-3067
八戸農業協同組合階上支店	蒼前東一丁目9-805	88-2221
階上漁業協同組合	道仏字榊山5-61	89-2111
階上町商工会	道仏字天当平1-129	88-2045
(公社)青森県栽培漁業振興協会	道仏字榊平 17-1	87-3360
階上郵便局	赤保内字耳ケ吠6-28	88-2100
階上駅前郵便局	道仏字榊山10	89-2100

年表

西暦	年号	事柄
七二四～七二八	神亀元年～5年	僧侶・行基が寺下に海潮山應物寺を開山する。
一二八九	文治5年	南部光行、奥州征伐の勲功により源頼朝から糠部5郡を賜る。
一二四二	仁治3年	海潮山應物寺、雷火による山火事のため灰燼に帰す。
一二四六	寛元4年	僧江山、應物寺廃頽の記録をすると共に應物寺を再興する。
一二四四	文安元年	醐蓮社泰誉上人琳阿孝寛大和尚、道仏に海中山西光寺を開山する。
一四四八	文安5年	道仏の舘神社、赤松民部助義信によって草創される。
一五六九	永禄12年	道仏城主赤松民部吉時、九戸政実の軍を蒼前平に迎え打ち敗走させる。
一五七五	天正3年	道仏城、九戸政実の攻撃を受けて落城。
一五九一	天正19年	九戸政実の乱鎮定する。
一六〇四	寛文4年	南部直房八戸2万石を与えられる。（現在の階上町は八戸領となる）
一六〇四	貞享元年	得蓮社息誉見生和尚、晴山沢に晴山沢西光寺を開山する。
一六〇四	〃	この頃、現在の階上町は6カ村となっていた。鳥屋部村、角柄折村、平内村、晴山沢村、田代村、道仏村。（赤保内は鳥屋部村に、金山沢は松舘村に含まれていた）
一七一三	正徳2年	僧津要玄梁、寺下観音に参籠し「海潮山應物寺廃頽の記」を発見する。
一七一三	正徳3年	八戸藩士接待宗磧、大蛇海岸に経塚を建てる。（現存）
一七一九	享保4年	第4代八戸藩主南部広信、寺下観音に梵鐘を寄進する。（現存）
一七三〇	享保15年	寺下燈明堂落成供養、八戸藩主より毎年銭5貫文を別当野沢彦六に給する。
一七三四	享保19年	晴山沢村（現在の晴山沢地区）に山王堂建立される。（現在の日吉神社の前身）
一七四五	延享2年	寺下五重の塔落成供養（8月4日）僧津要玄梁没す。
一七九〇	寛政2年	江戸時代中期の勤王家高山彦九郎、田代村に泊り盛岡方面に向う。
一七九四	寛政6年	小舟渡金刀比羅神社勧請。
一七九八	寛政10年	角柄折村（現在上明戸地区）にのちの江戸相撲大関秋津風音右衛門生まれる。（39歳で引退）
一八〇一	享和元年	伊能忠敬、奥州沿岸測量の旅で小舟渡、榊、追越、大蛇を経て鮫村に止宿する。
一八〇四	文化元年	野田源太夫が鳥屋部村に寺子屋を開く。同じ頃千葉弥右衛門が角柄折村に寺子屋を開く。
一八〇七	文化4年	八戸藩浦堅め（海岸防備）の場所として小舟渡海岸を定める。（藩内6カ所）
一八一七	文政10年	この頃道仏村（現在大蛇地区）に江戸相撲前頭四枚目、千

西暦	年号	事柄
一八三〇	天保元年	年川音松生まれる。のちに大関・剣山を破る活躍を見せる。
一八三四	天保5年	村永竜法が道仏村に寺子屋を開く。
		八戸糠塚にのちの大沢多門（明治年間八戸町戸長を務める）、根井沢定右衛門生まれる。（道仏字浜久保において明治39年没す）
一八三八	天保9年	角柄折村（現在の角柄折地区）にのちの八戸県大参事太田広城生まれる。
一八四八	嘉永元年	川島民浄が晴山沢西光寺に寺子屋を開き明治6年まで続いた。
一八五三	安政元年	小舟渡海岸に八戸藩の台場（砲台）が築造される。
一八七七	安政4年	八戸藩士蛇口胤年（伴蔵）、水運開発事業の願文を寺下観音に納める。
一八八一	文久元年	蛇口用水、寺下、石ノ倉の両所から蒼前平に達する。
一八八五	慶応元年	三田某が平内に寺子屋を開く。
一八八八	慶応4年	戊辰戦争が起こる。太田広城、八戸藩中老職として戦後処理に奔走。八戸藩領を戦禍から守る。
一八八八	〃	小舟渡お台場の防備が強化される。
一八八九	明治2年	諸藩の版籍奉還を許し、諸藩主が藩知事に任命される。（南部信順、八戸藩知事となる）
一八七一	4	廃藩置県の詔書が発布され現在の階上町は八戸県の所属となる。同年八戸県は弘前県に合併され、さらに同年9月23日青森県と改称される。
一八七一	〃	潮山神社が建設される。
一八七一	〃	太田広城、広沢安任（斗南藩士）と共に洋式牧場を開くべく、イギリス人ルセーとマキノンを雇い、谷地頭（現三沢市）に牧場を開く。
一八七二	5	太田広城、青森県典事となる。（明治6年青森県大参事へ、明治8年8月に退官）
一八七三	6	大小区制により現在の階上町は第9大区4小区となる。（この頃の階上村は田代村、晴山沢村、平内村、鳥屋部村、金山沢村、角柄折村、赤保内村、野沢村、道仏村の9カ村）
一八七三	〃	海岸に面する道仏村（現在の大字道仏）では塩釜（製塩工場）が6カ所にあった。
一八七四	7	登切小学校、道仏小学校が創立。
一八七五	8	角柄折小学（現階上小学校）が創立。
一八七五	〃	野沢村が赤保内村に合併。（現在の大字赤保内となる）
一八七八	11	郡制施行により8カ村を合わせた戸長役場が角柄折村正部家に開設。
一八八〇	13	太田広城、北海道福山（現松前町）に渡り開墾の指導を行う。（明治18年、北海道奥尻郡釣懸村他3カ村の三代戸長となり、明治23年退官）

西暦	年号	事柄
一八八六	明治19年	階上村（8カ村）の地押（測量）を行い、持主ごと一筆ごとの照査なされる。
一八八六	〃	会計年度が改正され、4月1日起算となる。
一八八七	20	角柄折村正部家に巡査駐在所が開設される。（その後鳥屋部、小舟渡、耳ケ吠へと移転する）
一八八七	〃	角柄折に私立養蚕伝習所が開設される。
一八八九	22	市町村制施行により階上村となる。（道仏村、角柄折村、赤保内村、田代村、晴山沢村、平内村、金山沢村、鳥屋部村の8カ村を合わせて階上村とする）
一八八九	〃	鳥屋部に天野玄致が医院を開業。村内はじめての開業医となる。（大正14年没）
一八九六	29	三陸沿岸一帯に大津波襲来。（死者21名、家屋流失1、家屋全半壊5軒、納屋流失12軒、漁船流失13隻など）
一八九九	32	木村靄村、鳥屋部に生まれる。（歌人、県文化賞受賞者・東京において昭和41年没す）
一八九九	〃	田代に郵便局が開局。（県下75番目の開局）
一九〇二	35	田代巡査駐在所が開設。
一九〇二	〃	八戸の政治家、奈須川光宝と関春茂が蛇口水堰の復旧を試みる。（のち2年ほど蒼前平に稲が作付される）
一九〇三	〃	大蛇小学校、小舟渡小学校が創立。
一九一〇	43	田代郵便局電信業務を開始。
一九一一	44	太田広城、八戸へ帰郷。（旧八戸藩士族の老年会会長、八戸俳諧倶楽部会長を務め、明治44年、75歳で没す。
一九一三	大正2年	八戸市糠塚大慈寺に眠る）
一九一六	5	寺下の五重の塔が暴風雨により倒壊。
一九一八	7	晴山沢青年団結成。
		大正2年の大凶作をもたらした冷害気象下でも在来品種のソバが相当の収穫量を得られ、同4年の試験場での試験で優れた風味であったため、この年「階上早生」と命名される。
一九一八	〃	平内に天然痘発生。（死者7人）
一九一九	8	役場を耳ケ吠に移転。翌9年新庁舎を落成。
一九二〇	9	第1回国勢調査。（本村人口6530人）
一九二三	11	村に電灯が灯る。
一九二三	〃	階上村消防組を組織。（35人）
一九二三	12	赤保内小学校が創立。
一九二三	〃	小舟渡地区に消防組を組織。
一九二四	13	金山沢小学校が創立。
一九二四	〃	階上駅が開業（八戸線が種市（現在の洋野町）まで開通）
一九二五	14	村内に腸チフスが蔓延。
一九二六		階上郵便局が耳ケ吠に開局。
一九二九	昭和3年	階上駅前郵便取扱所開設。（現在の階上駅前郵便局の前身）

西暦	年号	事柄
一九三三	昭和8年	三陸沿岸大津波襲来。（死者2人、行方不明者1人、家屋流失10軒、納屋流失12軒、漁船流失99隻など）
一九三三	〃	農林省主催、全国馬匹博覧会に東北代表として出品された軽乗馬「藤代号」が日本一の名誉賞を獲得。（地代所清蔵氏所有馬）
一九三三	〃	田代・鳥屋部地区に消防組を組織。
一九三三	〃	階上早生が青森県奨励品種に採用される。
一九三四	9	榊山地区（現在駅前地区）に消防組を組織。
一九三六	11	鳥屋部に乳牛（ホルスタイン種）導入。
一九三七	12	電話が開通。
一九三七	〃	「警防団令」の公布により消防組が警防団に改組。
一九三九	14	耳ケ吠診療所に橋本勇医師を村医として招へい開院。
一九三九	〃	葉たばこの栽培が始まる。
一九三九	〃	小舟渡地区民家から火災が発生。１２６戸中、小舟渡小学校を含む48戸全焼。
一九三九	〃	階上郵便局が電話交換業務を開始。
一九四〇	15	階上村国民健康保険組合事業開始。（戦後の混乱により昭和24年廃止）
一九四〇	〃	村内初の消防ガソリンポンプ榊山地区警防団に配備。
一九四一	16	階上村にはじめて自家用貨物自動車が入る。
一九四二	17	階上村森林組合設立。
一九四三	18	耳ケ吠診療所解体。新田に移転診療所開設。
一九四三	〃	階上農業会、階上漁業会設立。
一九四四	19	鳥屋部尋常小学校（階上小学校）、健康優良学校日本一を受賞。
一九四五	20	登切小学校焼失。翌年新校舎完成。
一九四五	〃	米軍機に空襲をうける。（階上駅、小舟渡小、大蛇小学校が爆撃され被害）8月15日終戦。
一九四七	22	階上中が階上小に、道仏中が道仏小に併設。
一九四七	〃	警防団が消防団に改組。
一九四七	〃	道仏警察官駐在所が榊山に設置。
一九四七	〃	村上寿男氏耳ケ吠に医院開業。（昭和27年まで）
一九四八	23	大蛇小学校焼失により、新校舎完成。
一九四八	〃	階上村農業会が解散。階上村農業協同組合、階上村第1農業協同組合、道仏農業協同組合の3組合が設立。
一九四八	〃	東平地区１４３・８haに32戸入植。
一九四九	24	村内に南部バスが運行される。
一九四九	〃	小舟渡、榊、荒谷、大蛇の各漁業会が設立される。
一九四九	〃	田代診療所を開設。
一九四九	〃	第1回村内産業品評会開催。
一九五〇	25	石鉢小学校が創立。
一九五〇	〃	階上中学校に金山沢、登切冬季分校併置。

西暦	年号	事柄
一九五〇	昭和25年	階上村遺族会結成。
一九五一	26	保温折衷苗代普及される。
一九五一	〃	第1回階上村乳牛品評会開催。
一九五一	〃	新田、神子沢地区65・9haに15戸入植。
一九五一	〃	階上中学校新校舎、角柄折字蝙蝠地区に完成。金山沢、登切中学校分校設置。
一九五二	27	荻沢甚作氏（晴山沢）、郷土研究誌「はしかみ」創刊。
一九五二	〃	大蛇、追越、榊漁港階上村管理第1種漁港に指定。
一九五三	28	大蛇漁港整備県単独事業着工。
一九五三	〃	道仏中学校校舎、道仏字榊山地区に新築移転。
一九五三	〃	村社会福祉協議会が結成。
一九五四	29	海潮山應物寺、角柄折字蕨に再興される。
一九五四	〃	霜害により農作物被害甚大。
一九五四	〃	村内初の自動車ポンプが耳ケ吠（旧第1分団）に配置。
一九五四	〃	金山沢、登切分校が独立昇格して金山沢中、登切中学校となる。
一九五五	30	広報はしかみ第1号発行。
一九五五	〃	階上村連合青年団結成。
一九五五	〃	階上村児童生徒文集「すぎの子」創刊。
一九五六	31	乳児死亡率県内最高となる。（人口１０００対１４４・４）
一九五六	〃	八戸線大蛇停留所が開設。
一九五六	〃	階上村連合婦人会創立。
一九五七	32	村内にはじめての保育園が道仏地区に開設。
一九五七	〃	階上村にはじめてテレビが入る。
一九五八	33	階上村農業協同組合が合併設立。（酪農協、第1農協、道仏農協、階上農協が合併）
一九五八	〃	役場庁舎が新築される。
一九五九	34	小舟渡廿一に無人灯台を設置。
一九五九	〃	国民健康保険事業が開始。
一九五九	〃	国民年金の福祉年金が開始。
一九六〇	35	村体育協会設立。第1回村民体育大会開催。
一九六〇	〃	チリ地震津波襲来、被害甚大。（漁船、漁網など）
一九六〇	〃	てんさい（ビート）の栽培が行われる。（昭和42年まで）
一九六〇	〃	階上村診療所を開設。
一九六〇	〃	階上村母子福祉会結成。
一九六一	36	階上漁業協同組合が合併設立。（小舟渡、榊、荒谷、大蛇の各漁業会が合併）
一九六一	〃	大山津見神社つくし森に再建される。
一九六一	37	田代地区簡易水道完成。
一九六二	〃	階上村商工会設立。
一九六二	〃	榊漁港整備県単独事業着工。
一九六二	〃	農業共済事業村移譲となる。

西暦	年号	事柄
一九六二	昭和37年	階上村連合ＰＴＡ結成。
一九六二	〃	階上村観光協会設立。階上岳つつじ祭り開催。（観光漁業行われる）
一九六三	38	道仏小学校校舎焼失により新校舎完成。
一九六三	〃	耳ケ吠地区簡易水道完成。
一九六四	39	児童生徒用教科書が無償給付される。
一九六四	〃	登切小学校で給食開始。（村内初）
一九六四	〃	国民健康保険事業7割給付実施。
一九六四	〃	第1回階上村社会福祉大会開催。
一九六四	〃	村民より公募し村章の制定、村旗を樹立。
一九六四	〃	追越漁港局部改良工事着工。
一九六五	40	階上村老人クラブ連合会結成。
一九六五	〃	八戸美保野地区で発生した山林火災が松森・笹畑地区に飛び火8ha焼失。
一九六六	41	大蛇地区簡易水道完成。
一九六六	〃	学校牛乳給食が始まる。
一九六六	〃	県より派遣保健婦常駐。
一九六六	〃	第1回村内駅伝大会開催。
一九六六	〃	階上村連合青年団全国青年大会に初出場。
一九六六	〃	村単敬老年金支給開始。
一九六六	〃	第1回共同保健計画会議開催。
一九六六	〃	条例改正により村議会議員定数18人となる。
一九六七	42	中央公民館落成。（現在の民俗資料収集館）
一九六七	〃	移動教育庁、本村にて開かれる。
一九六七	〃	第1次農業構造改善事業着工。（昭和44年完了）
一九六七	〃	八戸平原開発促進協議会が設立。（八戸市、階上村、南郷村、岩手県軽米町）
一九六七	〃	階上駅前郵便局が完成。
一九六七	〃	八戸地区環境整備組合1市1町3村で設立。
一九六八	43	十勝沖地震、津波襲来、沿岸の被害甚大。（漁網など）
一九六八	〃	村戦没慰霊塔の建立。合同慰霊祭開く。
一九六八	〃	移動採血車による献血、移動検診車による胃がん検診が行われる。
一九六九	44	第21回三戸郡総合体育大会が階上で初開催。
一九六九	〃	小舟渡漁港改修事業着工。
一九六九	〃	へき地患者輸送車運行開始。
一九六九	〃	階上村身体障害者更生会結成。
一九六九	〃	国道45号舗装工事完成。
一九七〇	45	青森テレビ（ＡＴＶ）の階上中継所が階上岳の大開に完成。
一九七〇	〃	国土調査事業地籍調査が始まる。（平成2年完了）
一九七〇	〃	米の生産調整が始まる。

西暦	年号	事柄
一九七一	昭和46年	東北大学理学部地震観測所階上岳中腹に設置。
一九七一	〃	稚蚕共同飼育所設置される。
一九七一	〃	大蛇漁港局部改良工事着工。
一九七一	〃	八戸地域広域市町村圏事務組合八戸東消防署階上分遣所が耳ケ吠に設置される。
一九七一	〃	耳ケ吠地区消防団が廃止され、階上村消防団が4分団に改組。（1分団小舟渡、2分団田代、3分団鳥屋部、4分団駅前）
一九七一	〃	農村集団電話が開通。
一九七一	〃	里山再開発事業を実施。（林道5路線昭和48年完了）
一九七一	〃	第1回観光漁業祭開催。（昭和50年まで）
一九七一	〃	不燃物、可燃物ごみ収集開始。
一九七一	〃	階上中学校が開校。（階上、登切、金山沢の3中学校統合）
一九七二	47	階上村商工会館が完成。
一九七二	〃	金山沢地区スクールバス路線改良工事完成。
一九七二	〃	道仏公民館が開館。
一九七二	〃	第1回青森・岩手県境交通安全大会開催。
一九七二	〃	榊漁港局部改良事業着工。
一九七三	48	学校給食センターが完成。センター方式による小中学校の完全給食が実施。
一九七三	〃	階上中学校スクールバス2台購入運行される。
一九七三	〃	ＮＨＫテレビ中継局の設置により難視聴（海岸一帯）地区が解消。
一九七三	〃	異常渇水により駅前地区に給水車が出動。
一九七三	〃	老人家庭奉仕員を配置。
一九七三	〃	除雪ドーザー導入。
一九七三	〃	コンブ、ワカメ、ホヤの増殖事業が始まる。
一九七三	〃	国保直営診療所を開設。
一九七三	〃	農業共済組合の合併により三八農業共済組合が発足。
一九七三	〃	交通指導隊、各小学校ＰＴＡ交通安全母の会結成。
一九七三	〃	ながいも栽培が行われる。
一九七三	〃	小舟渡漁港改修工事着工。
一九七四	49	道仏地区簡易水道完成。
一九七四	〃	田代地区山林火災発生。（３００haの焼失、損害約2億2千万円）
一九七四	〃	小舟渡漁港関連道路が開通。
一九七四	〃	電話がダイヤル化される。（村内全域）
一九七四	〃	階上岳が県立自然公園の編入指定を受ける。
一九七四	〃	階上歯科診療所開設。
一九七五	50	榊山地区村営住宅30戸完成。（昭和48年着工）
一九七五	〃	老人憩の家（寿荘）完成。
一九七五	〃	村内初の階上中学校プール完成。

西暦	年号	事柄
一九七五	昭和50年	登切～小松倉線改良工事完成。
一九七五	〃	電子計算機による共同事務処理開始。（住民登録など）
一九七五	〃	角柄折地区簡易水道工事着工。（昭和52年完成）
一九七五	〃	県道八戸大野線舗装工事完成。
一九七六	51	赤保内小が交通安全子供自転車県大会で優勝、全国大会に出場。
一九七六	〃	構造学習研究会全国大会を道仏小学校で開催。
一九七六	〃	農林大臣に八戸平原総合農地開発事業を申請。
一九七六	〃	進路指導研究集会東北大会を道仏中学校で開催。
一九七六	〃	異常気象により水稲平年作の56％減収。
一九七七	52	階上漁村センターを新築。
一九七七	〃	記録的な大雪に見舞われ被害出る。
一九七七	〃	映画「季節風」野口五郎、大竹しのぶら本村初のロケーション。
一九七七	〃	道仏体育館がオープン。
一九七七	〃	福祉バスを購入運行。
一九七七	〃	あすなろ国体炬火リレー通過。
一九七七	〃	階上村誌を刊行。
一九七七	〃	村自治功労者表彰式並びに自治法施行30周年記念式典を挙行。
一九七七	〃	はしかみ音頭を制定。
一九七七	〃	道仏の西光寺（大蛇長根）が移転新築される。
一九七七	〃	県道鳥屋部十日市線舗装工事完成。
一九七八	53	国営八戸平原総合開拓事業に伴い石鉢地区にモデル圃場完成。（平成2年まで）
一九七八	〃	階上村商工会第1回夏祭り開催。
一九七八	〃	第1回村民文化祭開催。
一九七八	〃	公衆衛生事業功労団体として厚生大臣賞を受賞。
一九七八	〃	階上村社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
一九七九	54	国保診療所が天当平に移転新築。
一九七九	〃	種苗供給施設の完成。（大蛇海岸）
一九七九	〃	県立栽培漁業センター（第1期工事）追越地区に完成。
一九七九	〃	突風による被害甚大。（校舎、民家等、3月31日最大瞬間風速33・2ｍ）
一九七九	〃	山手地区簡易水道の完成。
一九七九	〃	交通死亡事故ゼロ千日を達成。（7月26日）
一九七九	〃	第1回村民歩こう大会実施。
一九八〇	55	階上村出稼ぎ協会設立。
一九八〇	〃	町制施行により「階上町」となる。
一九八〇	〃	町民より公募「町の花・木・鳥」及び町民憲章を制定する。
一九八〇	〃	町内初の婦人消防クラブ（田代）結成。
一九八〇	〃	冷害による被害8億6300万円に達する。
一九八〇	〃	ボランティアサークル「けやき」結成される。

西暦	年号	事柄
一九八一	昭和56年	地域集団電話から一般電話となる。
一九八一	〃	多目的研修センター「潮風荘」完成。
一九八一	〃	県立栽培漁業センター完成。（アワビの種苗生産開始）
一九八一	〃	第1次町総合振興計画を策定。
一九八一	〃	登切火防団が町消防団第5分団として発足。
一九八一	〃	道仏中学校校舎が完成。
一九八二	57	役場庁舎を天当平に移転新築。
一九八二	〃	豪雨により9億8200万円の被害を受ける。
一九八二	〃	青森銀行階上支店が開業。
一九八二	〃	石鉢ふれあい広場が完成。
一九八二	〃	道仏中学校体育館が完成。
一九八二	〃	駅前郵便局が移転新築。
一九八三	58	田代えんぶり保存館が完成。
一九八三	〃	南郷村島守地区で発生した山林火災が金山沢地区に飛び火18ha焼失。（被害額約1千万円）
一九八三	〃	民俗資料収集館がオープン。
一九八三	〃	第1回むつ湾一周駅伝競走大会、町の部準優勝。（大会は平成4年まで）
一九八三	〃	階上岳に漁業無線局が完成。
一九八三	〃	中央体育館がオープン。
一九八四	59	農村婦人の家が完成。
一九八四	〃	青森放送の階上テレビ局が開局。
一九八四	〃	老人福祉センターがオープン。
一九八四	〃	町消防団第2分団（田代）が全国消防操法大会で優良賞受賞。
一九八四	〃	平内えんぶり保存館が完成。
一九八四	〃	農村総合整備モデル事業が始まる。
一九八四	〃	ワードプロセッサ役場に導入。
一九八五	60	石鉢小学校校舎が完成。
一九八五	〃	町消防団が県知事表彰旗を受賞。
一九八五	〃	勤労者体育センター（現町民体育館）がオープン。
一九八五	〃	蒼前集会所が完成。
一九八五	〃	誘致企業第1号「島田縫製㈲階上工場」操業開始。
一九八五	〃	国際森林年町制施行5周年記念植樹祭開催。
一九八五	〃	第37回郡総合体育大会、本町で開催。（軟式野球、陸上男子優勝）
一九八五	〃	町老連創立20周年記念、町老人福祉大会開催。
一九八五	〃	金山沢地区に河川プールがオープン。
一九八五	〃	第14回国勢調査。（人口1万1547人、伸び率県下1位）
一九八五	〃	正部家奨氏が「階上町史」を発行する。
一九八五	〃	町制施行5周年記念式典開催。
一九八五	〃	第1回肉牛共進会開催。

西暦	年号	事柄
一九八六	昭和61年	町初のロープ塔が登切小学校スキー場に完成。
一九八六	〃	鳥屋部えんぶり保存館完成。
一九八六	〃	第1回はしかみいちご煮祭り開催。
一九八六	〃	道仏中新体操部東北大会6連勝達成。
一九八六	〃	観光列車「町民号」岩手県へ運行される。
一九八六	〃	登切小学校に緑の少年団を結成。
一九八六	〃	第1回健康づくり推進大会開催。
一九八六	〃	八戸圏域水道企業団設立、旧役場庁舎に階上事業所設置。
一九八六	〃	患者輸送バスを民間委託。
一九八七	62	赤保内駒踊保存館完成。
一九八七	〃	大蛇小学校校舎、体育館新築落成。
一九八七	〃	「はしかみの女（ひと）」レコードになる。
一九八七	〃	大蛇漁港に海産物簡易加工処理センター完成。
一九八七	〃	階上岳にアマチュア無線レピータ局が開局。
一九八七	〃	第1回町内駅伝競走大会開催。
一九八七	〃	第1回ファミリーマラソン大会開催。（平成8年まで）
一九八七	〃	田代小・中学校校舎移転新築。
一九八七	〃	第10回産業と文化の祭「臥牛祭」開催。
一九八七	〃	ほうれんそう雨除けハウス栽培行われる。
一九八七	〃	パーソナルコンピューターを役場に導入。
一九八八	63	道仏神楽保存館完成。
一九八八	〃	野沢スキー場完成。
一九八八	〃	防災行政用無線局開局。
一九八八	〃	蒼前地区コミュニティ公園完成。
一九八八	〃	大渡地区土地改良総合整備事業完成。（昭和59年着工）
一九八九	平成元年	町消防団が日本消防協会表彰（表彰旗）を受ける。
一九八九	〃	金山沢地区に「ふるさと河川公園」完成。
一九八九	〃	階上町国民健康保険事業施行30周年記念式典を開催。
一九八九	〃	一部スクールバスを廃止して、路線バス無料乗車券を交付。
一九八九	2	「光のふるさと創造事業」により階上中学校にグラウンド照明施設、西部地区に農産物加工施設、東部地区に海産物加工施設を整備。
一九八九	〃	階上誕生101年、町制施行10周年記念式典を挙行。記念植樹、タイムカプセル埋設、モニュメントの作製、はしかみ小唄制定、記念パレード、はしかみ101フェスティバルを実施。
一九九〇	〃	ヒラメ稚魚放流行われる。
一九九〇	〃	小舟渡小学校校舎・体育館完成。
一九九〇	〃	第15回国勢調査。（人口1万2959人、伸び率県下第1位）
一九九〇	〃	笹山秀雄氏第11回北京アジア大会レスリング競技フリースタイル52kg級銀メダル獲得。

西暦	年号	事柄
一九九〇	平成2年	第2次町総合振興計画を策定。
一九九一	3	春秋の清掃指導を廃止。町内一斉クリーンアップ作戦を始める。
一九九一	〃	合併処理浄化槽補助金交付事業始まる。
一九九一	〃	平内鶏舞・えんぶり組国立劇場で民俗芸能を上演。
一九九一	〃	第43回郡総合体育大会本町で開催。（陸上男女、バレーボール女子、野球、サッカー優勝）
一九九一	〃	がん検診（胃、大腸、肺、子宮、乳がん）無料となる。
一九九一	〃	突風により校舎、民家等被害を受ける。（9月28日、最大瞬間風速38・8m）
一九九一	〃	階上町ゲートボール協会設立。第1回町長旗争奪ゲートボール大会開催。
一九九一	〃	青森県葉たばこ共進会本町で開催。
一九九一	〃	町職員海外視察研修制度始まる。
一九九二	4	第1回新年互礼会が開催される。
一九九二	〃	児童数の増加により石鉢小学校新増改築完成。
一九九二	〃	八戸圏域水道企業団階上事業所が廃止され、八戸ブロックに統合。
一九九二	〃	町木「けやき」の造林始まる。
一九九二	〃	町民プールがオープン。（屋内50mは県内初）
一九九二	〃	第1回つつじマラソン大会開催。
一九九二	〃	農村環境改善センターを老人福祉センターに併設完成し「ハートフルプラザ・はしかみ」としてオープン。
一九九二	〃	第13回北奥羽選抜軟式野球選手権大会で階上クラブが優勝。
一九九二	〃	老人保健法による保健事業推進功労団体として町が厚生大臣表彰受賞。
一九九二	〃	役場完全週休2日制とする。
一九九三	5	無火災365日を達成。
一九九三	〃	文部省調査統計功労により町教育委員会が文部大臣賞を受賞。
一九九三	〃	不燃物最終処分場完成。
一九九三	〃	ふるさとにぎわい広場が建設省の「道の駅」に登録される。
一九九三	〃	金山沢小学校の新校舎・体育館が完成。
一九九三	〃	第62回全日本アマチュア自転車競技選手権ロードレース大会が開催される。
一九九三	〃	アクティブはしかみ13000フェスティバルを開催。
一九九三	〃	階上駅前商店街にスズラン灯（63基）を設置。
一九九三	〃	石鉢小学校が第13回全日本学童軟式野球大会県大会で優勝し全国大会に出場。
一九九三	〃	ハートフルプラザ・はしかみに中央公民館を移転し旧中央公民館を赤保内地区公民館と改称。

西暦	年号	事柄
一九九三	平成5年	記録的な冷害により甚大な被害。（水稲作況指数2
一九九三	〃	農作物被害総額約4億3千万円）
一九九三	〃	田中和五郎氏（鳥屋部）青森県長寿者第1位となる（104歳）。
一九九三	〃	総合運動公園整備事業始まる。
一九九四	6	役場庁舎完全分煙を実施。
一九九四	〃	中学生海外派遣事業・小学生国内派遣事業始まる。
一九九四	〃	階上小学校新築校舎・体育館が完成。
一九九四	〃	郷土誌「はしかみ」50号発行される。
一九九四	〃	八戸警察署階上交番完成。
一九九四	〃	クリエイティブ・アブラメin町民フォーラムを開催し町の魚「アブラメ」を制定。
一九九四	〃	都市計画区域に指定される。
一九九四	〃	不燃ゴミ収集を「かご収集方式」とする。（県内初）
一九九四	〃	大蛇火防団が町消防団第6分団として発足。
一九九四	〃	町民海外研修制度始まる。
一九九四	〃	三陸はるか沖地震（12月28日マグニチュード7・5）及び余震（平成7年1月7日）襲来、被害甚大。（負傷者8人、住家半壊30軒、一部損壊450棟ほか）
一九九五	7	登切小学校の新校舎・体育館が完成。
一九九五	〃	町営住宅つくしケ丘団地が完成。
一九九五	〃	(財)はしかみ町産業振興会設立。
一九九五	〃	観光物産館・ふるさとにぎわい広場「道の駅・はしかみ」オープン。
一九九五	〃	第1次階上町行政改革大綱を策定。
一九九五	〃	十文字友和氏（追越）大相撲春場所三段目全勝優勝。
一九九五	〃	八戸東消防署階上分署完成。
一九九五	〃	追越地区にアスナ公園がオープン。
一九九五	〃	町民プールを温水化とする。
一九九五	〃	町制施行15周年記念式典を挙行。記念パレード、町の魚「アブラメ」放流、記念植樹、メモリアルフェスタを実施。
一九九五	〃	階上町戦没者追悼式が行われる。
一九九六	8	階上中学校の新校舎・体育館が完成。
一九九六	〃	金山沢コミュニティーセンターが完成。
一九九六	〃	笹山秀雄氏（駅前）アトランタオリンピックレスリング競技に出場。
一九九六	〃	階上中学校女子体操部・ゆかだんユニホッケーチームが全国大会に出場。
一九九六	〃	第1回階上町産業振興祭を開催。
一九九六	〃	石鉢火防団が第7分団（石鉢）として発足。
一九九六	〃	公衆衛生活動により、町保健協力員会が厚生大臣表彰を受賞。
一九九六	〃	「階上町史」資料編Ⅰを発行。

西暦	年号	事柄
一九九七	平成9年	金山沢簡易水道完成。
一九九七	〃	階上みょうたん柿ワインを発売。
一九九七	〃	階上都市計画用途地域が決定。
一九九七	〃	第48回青森県植樹祭を登切小学校で開催。
一九九七	〃	階上クラブ（軟式野球）が東日本軟式野球大会に出場。
一九九七	〃	高雄市（台湾）の民族国民中学校が来町し、階上・道仏両中学校と交流を図る。
一九九七	〃	赤保内小学校の新校舎・体育館が完成。
一九九七	〃	大蛇小学校が大蛇駅周辺の清掃活動で運輸大臣賞を受賞。
一九九七	〃	十文字改め階ケ嶽が町初（明治以降）の関取となる。
一九九八	10	第9回全国ユニホック大会で階上町女子優勝。
一九九八	〃	地方自治法施行50周年記念シンポジウムinはしかみを開催。「郷土の偉人・太田広城」を語る。
一九九八	〃	鳥屋部地区住宅用地「トウィンクルタウン大鶴音」が完成し分譲を開始。
一九九八	〃	「フォレストピア階上」が登山口にオープン。
一九九八	〃	交通死亡事故ゼロ千日を達成（7月31日）。記念交通安全町民大会を開催。
一九九八	〃	西光寺ナニャドヤラ保存会が第48回全国民俗芸能大会に出演。
一九九八	〃	東北地区生涯学習まちづくり研究大会を階上町で開催。
一九九八	〃	階上町総合防災訓練を初めて実施。
一九九八	〃	滝端遺跡で縄文後期の頭部「はめ込み式」土偶が発掘される。
一九九九	11	役場業務をコンピュータ化。総合行政システムが稼働。
一九九九	〃	町の元気のために地域振興券交付事業が開始される。
一九九九	〃	住民登録人口1万5000人を突破。（12月3日）
一九九九	〃	階上都市計画道路が決定。
一九九九	〃	町民プールが入場者1万人を突破。
一九九九	〃	大蛇地区の漁業集落排水処理施設が完成。
二〇〇〇	12	町の観光のシンボルとして「臥牛の塔」を設置。
二〇〇〇	〃	第2次階上町行政改革大綱を策定。
二〇〇〇	〃	第3次階上町総合振興計画を策定。
二〇〇〇	〃	道仏小学校校舎が完成。（町内小学校のすべてが近代化となる）
二〇〇〇	〃	十文字関が幕内に昇進する。
二〇〇〇	〃	石鉢小学校グラウンドに災害対策緊急給水施設が完成。
二〇〇〇	〃	階上町文化協会設立。
二〇〇〇	〃	町制施行20周年式典を挙行。（シンボルキャラクターの制定・盆踊り大会・記念写真集の発刊・子ども議会等）
二〇〇〇	〃	「階上町史」資料編Ⅱ・通史編Ⅰを発行。

西暦	年号	事柄
二〇〇〇	平成12年	市町村合併協議会の設置を請求する県内初の住民発議がされる。（12月5日）
二〇〇〇	〃	大蛇小学校が学校給食文部大臣表彰を受賞。
二〇〇一	13	蒼前地区の住所変更（町名整理事業）が行われる。
二〇〇一	〃	八戸市・階上町・福地村・南郷村合併検討協議会（任意）が発足する。
二〇〇一	〃	「階上町史」通史編Ⅱを発行。
二〇〇一	〃	道仏婦人会の花壇整備活動が認められ国土交通大臣表彰を受賞。
二〇〇一	〃	耳ケ吠東コミュニティセンター（愛称ふれあい館）が完成。
二〇〇一	14	はしかみUHC（ユニバーサルホッケーチーム）が全国大会低学年混成の部で優勝。
二〇〇一	〃	学校週5日制を完全実施。
二〇〇一	15	市町村合併住民説明会を町内9会場で実施。
二〇〇一	〃	階上町が八戸市、福地村、南郷村、名川町、南部町、田子町と合併することの賛否を問う住民投票が実施される。（2月9日執行）
二〇〇一	〃	八戸地域合併協議会（法定）が発足。
二〇〇一	〃	石鉢地区に石鉢ふれあい交流館が完成。
二〇〇一	〃	鳥屋部地区に森の交流館が完成。
二〇〇一	〃	冷害により被害を受ける。（作況指数14、農作物被害総額約1億3200万円）
二〇〇四	16	はしかみUHCが全国大会小学生高学年の部で優勝。
二〇〇四	〃	「階上町が八戸市、福地村、南郷村、名川町、南部町、田子町及び新郷村と合併することの同意を求めることについて」の議案が賛成少数により否決され、八戸地域合併協議会から離脱。
二〇〇四	〃	八戸地域合併協議会が廃止される。
二〇〇四	〃	寺下遺跡から鹿角製腰飾りが発掘される。
二〇〇四	〃	しるし平～石倉線の登山車道が開通、階上岳の道路整備が完了する。
二〇〇四	〃	JR階上駅の開業80周年を祝う記念行事が開催される。
二〇〇五	17	第3次階上町行政改革大綱を策定。
二〇〇五	〃	階上岳つつじの森キャンプ場が完成。
二〇〇五	〃	第1回階上町歴史講座が開催される。
二〇〇五	〃	列車運行システムの近代化に伴い、JR階上駅の腕木式信号機が80年の役割を終えて撤去される。
二〇〇五	〃	青色回転灯を搭載の防犯パトロール車の出発式が行われる。（県内2例目）
二〇〇五	〃	大蛇地区漁業集落環境整備事業（集落道3路線、漁業集落排水処理施設、雨水排水路2カ所、緑地広場2カ所）が完成。
二〇〇五	〃	奇峰学秀作の木彫仏像が鳥屋部地区で発見される。

西暦	年号	事柄
二〇〇五	平成17年	階上町連合婦人会が創立50周年を迎える。
二〇〇五	〃	第1回階上岳横断ウォークが行われる。
二〇〇六	18	協働のまちづくり町民会議が発足。
二〇〇六	〃	日韓スポーツ大会（韓国・麗水市）で大前典男氏（平内）と谷川保博氏（金山沢）が金メダルを獲得。
二〇〇六	〃	第21回いちご煮祭りで「元祖いちご煮」が限定販売される。
二〇〇六	〃	地域アニメーター養成のための「ふるさとかだり塾」を開講。
二〇〇六	〃	十文字関が大相撲九州場所で初の十両優勝。
二〇〇六	〃	階上そば振興委員会「階上そばりえ」を設立。
二〇〇六	〃	階上ブランドの確立を図るため、階上の味普及推進協議会を設立。
二〇〇七	19	榊漁港漁場機能高度化事業が完成。
二〇〇七	〃	「階上町協働のまちづくり条例」を制定。町内6か所で協働のまちづくり住民懇談会を実施。
二〇〇七	〃	八戸南道路の八戸南インターチェンジ～種差海岸階上岳インターチェンジ間3・4㎞が開通。
二〇〇七	〃	階上（種市）岳に完成した八戸局が地上デジタル放送を開始。（8月1日）
二〇〇七	〃	イベント列車「風っこシーガル号」が階上駅～八戸駅間で運行。
二〇〇七	〃	田代地区振興計画実行委員会が、平成19年度豊かなむらづくり全国表彰事業で東北農政局長賞を受賞。
二〇〇七	〃	第1回階上早生新そば祭りを開催。
二〇〇七	〃	JR階上駅前に腕木式信号機を復元設置。
二〇〇八	20	新成人が組織する成人式実行委員会企画運営の成人式が行われる。
二〇〇八	〃	有形文化財9点、無形民俗文化財2点、天然記念物1点を町文化財指定する。
二〇〇八	〃	町連合婦人会が町民歌「光のふるさと」に健康体操の振り付けをする。
二〇〇八	〃	原油高騰対策として福祉灯油券を発行。
二〇〇八	〃	協働のまちづくりアクションプランが完成。
二〇〇八	〃	全19行政区で作成した「地区まちづくり計画」が完成。
二〇〇八	〃	階上駅前に「階上駅信号小屋」を復元。
二〇〇八	〃	階上ブランド確立のため「階上早生」階上そばの商標登録する。
二〇〇八	〃	石鉢ふれあい交流館に町民サービスコーナーが設置される。
二〇〇八	〃	町営住宅榊山団地の移転新築工事完成。
二〇〇九	21	八戸圏域水道企業団管轄区域において断水事故が起きる。（1月1日）

西暦	年号	事柄
二〇〇九	平成21年	石鉢女性消防クラブが青森県知事表彰を受賞。
二〇〇九	〃	階上中学校の耐震化工事が完了。町内全小・中学校の耐震化完了。
二〇〇九	〃	町民の交通手段としてコミュニティバスを本格運行。
二〇〇九	〃	茨島浄化センターの公共下水道の供用開始。
二〇〇九	〃	日米まちづくりフォーラムｉｎはしかみが開催される。
二〇〇九	〃	広報はしかみ６００号が発行される。（第１号は昭和30年９月15日）
二〇〇九	〃	八戸市との定住自立圏形成協定を締結。
二〇〇九	〃	臥牛の郷生活研究連絡協議会がふるさとの伝統料理集「階上町の伝統料理」を発刊。
二〇一〇	22	町初の女性副町長（久保和子氏）が選任。
二〇一〇	〃	第４次階上町行財政改革大綱を策定。
二〇一〇	〃	南米チリ中部で発生した巨大地震で、青森県から宮城県にかけて大津波警報が発令。
二〇一〇	〃	第４次階上町総合振興計画を策定。
二〇一〇	〃	階上町名誉町民条例を制定。第１号に上野正藏氏。
二〇一〇	〃	はしかみ総合スポーツクラブ設立。
二〇一〇	〃	登切小学校閉校。（１３５年の歴史に幕）
二〇一〇	〃	町立学校給食センターを新築、オープン。（ＨＡＣＣＰ（ハサップ）概念を導入したオール電化、ドライ方式）
二〇一〇	〃	町制施行30周年記念式典を開催。
二〇一〇	〃	交通死亡事故ゼロ千日を達成。（５月28日）
二〇一〇	〃	旧中央保育所跡地にあおぞらテニスコートオープン。
二〇一〇	〃	三八支部消防操法大会で第５分団（登切）がポンプ自動車の部で優勝。第26回青森県消防操法大会に出場し準優勝。
二〇一〇	〃	交通死亡事故ゼロ３年を達成。（８月31日）
二〇一〇	〃	ふるさとはしかみ会設立。
二〇一〇	〃	道の駅はしかみに太陽光発電システムを設置。
二〇一〇	〃	大蛇・小舟渡地区に町内初の少年消防クラブ結成。
二〇一〇	23	町消防団が消防庁長官表彰旗を受賞。
二〇一一	〃	東日本大震災発生。東北地方太平洋沖地震による大津波襲来。（３月11日マグニチュード９・０、階上町震度５強）人的被害なし、住家、店舗、浜小屋等全半壊92軒、漁船流失・損壊１２４隻他被害甚大。被害額13億３６００万円。
二〇一一	〃	金山沢小学校閉校。（86年の歴史に幕）
二〇一一	〃	元幕内十文字が引退。
二〇一一	〃	防災無線をデジタル化し、全国瞬時警報システム（Ｊ―ＡＬＥＲＴ）とも連携する。

西暦	年号	事柄
二〇一一	平成23年	東日本大震災からの復興を祈願し、「がんばろう！はしかみ復興市ｉｎ大蛇」を開催。
二〇一一	〃	台風15号による大雨で河川・道路に被害。
二〇一一	〃	自主防災組織が全行政区で組織化。町内世帯カバー率１００％となる。
二〇一一	24	階上町震災復興計画を策定。
二〇一一	〃	戸籍管理をシステム化。
二〇一一	〃	町消防団第１分団屯所を移転新築。
二〇一一	〃	旧登切小学校を改修し「わっせ交流センター」オープン。
二〇一一	〃	三八地区消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ自動車の部、小型動力ポンプの部の両部門でダブル優勝。第27回青森県消防操法大会に両部門出場し、小型ポンプの部で準優勝。
二〇一二	〃	階上町赤十字奉仕団が結成50周年を迎える。
二〇一三	25	階上ＩＣが完成し、復興道路として八戸南道路が全線開通。
二〇一三	〃	階上町津波避難計画を策定。
二〇一三	〃	八戸学院大学と連携協力協定締結。
二〇一三	〃	大蛇三地区集会所が完成。
二〇一三	〃	道仏公民館耐震補強・改修工事が完了。
二〇一三	〃	沿岸監視カメラ設置、映像公開開始。
二〇一三	〃	原因不明の連続林野火災発生。（29件、９・16ha焼失）
二〇一三	〃	階上岳・階上海岸ごみ一掃大作戦が行われる。
二〇一三	〃	階上岳・階上海岸が三陸復興国立公園に指定される。光ブロードバンドサービス町内カバー率１００％となる。
二〇一三	〃	第１回素人そば打ち段位認定階上大会が開催される。
二〇一三	〃	みちのく潮風トレイル北部ルートが開通。
二〇一四	26	階上駅新駅舎が完成。
二〇一四	〃	記録的な大雪により農作物等が被害を受ける。
二〇一四	〃	階上町庁舎耐震補強・改修工事が完了。
二〇一四	〃	フォレストピア階上リニューアルオープン。
二〇一四	〃	三八地区消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ自動車の部、小型動力ポンプの部の両部門でダブル優勝。第28回青森県消防操法大会に両部門出場し、両部門でダブル優勝。
二〇一四	〃	階上町自主防災組織連絡協議会を設立。
二〇一四	〃	第24回全国消防操法大会小型ポンプの部に第１分団（小舟渡）が出場、11位の敢闘賞。佐京喜一２番員が優秀選手賞を受賞。
二〇一五	27	階上早生そば焼酎「早生のめぐみ」発売。
二〇一五	〃	八戸学院大学、八戸学院短期大学と連携協力協定締結。

西暦	年号	事柄
二〇一五	平成27年	小舟渡少年消防クラブが消防長官表彰を受賞。
二〇一五	〃	小舟渡女性消防クラブが青森県知事表彰を受賞。
二〇一五	〃	町消防団第４分団屯所移転新築、ポンプ自動車更新。
二〇一五	〃	旧金山沢小学校を改修し「金山沢水郷館」が完成。
二〇一五	〃	階上町庁舎１階フロア改修工事完了、ワンフロアサービスが可能に。
二〇一五	〃	階上町民文化祭において「階上の偉人展―太田広城の足跡を辿る―」を開催。
二〇一五	〃	大蛇さざ波歩道橋が完成。
二〇一五	〃	道仏少年消防クラブ結成。
二〇一六	28	第５次階上町行財政改革大綱を策定。
二〇一六	〃	階上町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定。
二〇一六	〃	東日本大震災を風化させないためｎｅｖｅｒ ｆｏｒｇｅｔ３・11津波防災行事を開催。
二〇一六	〃	大蛇少年消防クラブが消防長官表彰を受賞。
二〇一六	〃	三八地区消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ自動車の部で優勝。第29回青森県消防操法大会に出場し、準優勝。
二〇一六	〃	道仏交流センターが完成。
二〇一七	29	健康宣言を実施し、庁舎内禁煙となる。
二〇一七	〃	有形文化財３点、天然記念物１点を町文化財指定する。
二〇一七	〃	田代小中学校閉校。（95年の歴史に幕）
二〇一七	〃	第86回全日本自転車競技選手権大会ロード・レースが開催される。
二〇一七	〃	まちづくりコーディネーター養成講座「はしかみベース」開講。（全７回）
二〇一七	〃	交通死亡事故ゼロ千日を達成。（10月24日）
二〇一七	〃	田代集会所が移転新築される。
二〇一八	30	階上早生生誕百周年を迎える。
二〇一八	〃	第２次協働のまちづくり地区計画が完成。
二〇一八	〃	太田広城生誕１８０年記念事業を開催。（生家跡説明板設置等）
二〇一八	〃	海業支援施設「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」オープン。
二〇一八	〃	道仏中学校消防クラブ結成。
二〇一八	〃	青森県立八戸水産高等学校と連携協定締結。
二〇一八	〃	三八地区消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ自動車の部で優勝。第30回青森県消防操法大会に出場し、優勝。
二〇一八	〃	八戸工業大学と連携協定締結。
二〇一八	〃	交通死亡事故ゼロ最長記録１３４３日を達成。（10月２日）

年表

西暦	年号	事柄
二〇一九	令和元年	有形文化財1点を町文化財指定する。
二〇一九	〃	階上町ふるさと大使に古屋敷裕大さんを再委嘱。
二〇一九	〃	役場庁舎などの敷地内全面禁煙を実施。
二〇一九	〃	空き家等対策計画を策定。
二〇一九	〃	関係団体と空き家等の対策に関する協定を締結。
二〇一九	〃	「階上町町勢要覧２０１９」を刊行。
二〇一九	〃	台風19号により観測史上最大の雨量を記録。
二〇一九	〃	住民票・印鑑登録証明書・マイナンバーカードに旧姓（旧氏）の併記が可能になる。
二〇一九	〃	厚生労働省主催の「第８回健康寿命をのばそう！アワード」生活習慣病予防分野の自治体部門で階上町が「厚生労働大臣優秀賞」を受賞。
二〇二〇	令和２年	国内で初めて新型コロナウイルス感染症が確認される。
二〇二〇	〃	はしかみ健康フォーラムを開催。「厚生労働大臣優秀賞」受賞記念講演会で三浦雄一郎氏の講演が行われる。
二〇二〇	〃	階上交番が移転新築される。
二〇二〇	〃	第６次階上町行財政改革大綱を策定。
二〇二〇	〃	第５次階上町総合振興計画を策定。
二〇二〇	〃	第２期階上町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定。
二〇二〇	〃	はしかみハマの駅あるでぃ～ば来場者が50万人を達成（４月１日）。
二〇二〇	〃	コロナ禍における町民の生活を支援するため、「はしかみ応援振興券」を町民全員に配布。
二〇二〇	〃	コロナ禍の影響を受けている事業者を対象に、「階上町内事業者支援金」を給付。
二〇二〇	〃	地サイダー「どごさいだ～　ハマさいだ～」が完成。
二〇二〇	〃	交通死亡事故ゼロ２千日を達成（７月20日）。
二〇二〇	〃	町制施行40周年記念式典を開催。
二〇二〇	〃	町内全小中学校のトイレの手洗い場の蛇口を非接触型の自動式に改修。
二〇二〇	〃	三陸沿岸道路　階上ＩＣから洋野種市ＩＣ間開通。
二〇二一	令和３年	道の駅はしかみ道路情報館完成。
二〇二一	〃	寺下遺跡出土骨角器類１４１点が県重宝に指定される。
二〇二一	〃	大蛇小学校、小舟渡小学校閉校。道仏小学校で統合式が行われる。
二〇二一	〃	新型コロナワクチン個別接種・集団接種が始まる。
二〇二一	〃	東京２０２０オリンピック聖火リレーが町沿岸部で行われる。

西暦	年号	事柄
二〇二一	令和３年	弘前大学と連携協力協定締結。
二〇二一	〃	共育型インターンシップｉｎ階上町が行われる。
二〇二一	令和４年	フォレストピア階上の指定管理者に㈱ヴァンラーレ八戸が指定される。
二〇二一	〃	町消防団第３分団屯所を移転新築。
二〇二一	〃	はしかみハマの駅あるでぃ～ば来場者が１００万人を達成（７月13日）。
二〇二一	〃	コロナ禍における町民の生活を支援するため、「はしかみ暮らし応援商品券」を町民全員に配布。
二〇二一	〃	第33回青森県消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ車操法の部で優勝。
二〇二一	〃	みちのくコカ・コーラボトリング㈱と包括連携協定締結。
二〇二一	〃	三井住友海上火災保険㈱と包括連携協定締結。
二〇二一	〃	あいおいニッセイ同和損害保険㈱と包括連携協定締結。
二〇二一	〃	第29回全国消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ車操法の部で優良賞（６位に入賞）。
二〇二一	〃	㈱青森テレビとＳＤＧｓパートナーシップ協定締結。
二〇二一	〃	明治安田生命保険相互会社と包括連携協定締結。
二〇二一	〃	町消防団が結成から１００年を迎える。
二〇二二	令和５年	国民スポーツ大会階上町実行委員会設立。
二〇二二	〃	有形文化財１点を町文化財指定する。
二〇二二	〃	交通死亡事故ゼロ３千日を達成（４月16日）。
二〇二二	〃	石鉢ふれあい交流館トレーニングルーム利用者が20万人を達成（６月８日）。
二〇二二	〃	階上アブラメブランド化推進事業イベントの取り組みの一環として「階上アブラメ祭り」を初開催。
二〇二二	〃	小舟渡集会所を移転新築。
二〇二二	〃	エネルギー等の物価高騰の影響を受けている事業者を対象に、「階上町事業者等物価高騰対策支援補助金」を給付。
二〇二二	〃	第19回アジア競技大会の自転車男子チームスプリントで、３走を務めた町出身の小原佑太選手が、中国との決勝戦で逆転に成功。０秒０３４差で振り切り、大会新記録で優勝。
二〇二三	〃	「第34回巨木を語ろう全国フォーラム」をハートフルプラザ・はしかみで開催。
二〇二三	〃	町消防団第１分団が結成から１００年を迎える。
二〇二三	〃	物価高騰により町民の生活を支援するため、「はしかみ物価高騰対策支援商品券」を町民全員に配布。
二〇二四	令和６年	町内小学校４校に対し、階上町産アカマツを使用した机と椅子に更新。
二〇二四	〃	コンビニエンスストアで各種証明書の取得が可能になる。

偉人「階上に生きた先人たち」

津要玄梁（しんようげんりょう）

津要和尚の墓所（日向山中腹）

寺下観音中興の祖といわれる津要玄梁は、延宝8年（1680）、八戸湊柳町の若松屋に生まれたと伝えられます。正徳2年（1712）33歳で寺下日向山（ひなたやま）に草庵（津要庵）を結び、享保15年（1730）日向山頂上に燈明堂を建立。延享2年（1745）8月4日には五重塔を完成させ、その年の12月に66歳で入寂（にゅうじゃく）しました。

蛇口伴蔵（へびぐちばんぞう）

蛇口伴蔵の銅像（世増ダム左岸）

蛇口伴蔵は文化7年（1810）に生まれ、軽米代官蛇口家の婿養子となり、家督を相続して伴蔵を襲名したようです。安政4年（1857）に隠居すると、私財を費やして蒼前平（そうぜんたい）に水路を通す大規模な水利事業に尽力。結局は未完成で終わりましたが、その大志は慶応2年（1866）9月に57歳で世を去るまで止むことはありませんでした。

太田広域（おおたひろき）

太田広城肖像（明治２年東京にて）

太田広城は天保9年（1838）、三戸郡角柄折（つのがらおり）村に八戸藩士太田喜満多久容（きまたひさもり）の次男として生まれました。その後、明治4年（1871）には八戸藩公用人として大参事まで昇格。明治6年（1873）には県政改革によって青森県典事（副知事級）に就任し、青森県誕生に貢献しました。明治44年（1911）に波瀾万丈の生涯を75歳で閉じました。

階上町民憲章

わたくしたちは、やま（臥牛山）と、うみ（太平洋）の美しい自然にはぐくまれた豊かな伝統をもつ階上町民です。

わたくしたちは、愛する郷土の発展としあわせをねがいこの憲章を定めます。

一、心のふれあいを大切にし文化の高いまちにしましょう。
一、より豊かな生活を求め活力のあるまちにしましょう。
一、心とからだをきたえ健康なまちにしましょう。
一、恵まれた自然を愛護し美しいまちにしましょう。
一、みんなできまりを守り住みよいまちにしましょう。

町章

階上町の（上）の字を図案化し、その上に（階）の字を載せ、常に上向きの生活を希い、円形は、平和と協力を表徴したものである。（町民から募集した入選作）

［昭和39年8月制定］

町の花・木・鳥・魚

〔花・木・鳥／昭和55年5月1日制定〕
〔魚／平成6年3月22日制定〕

町の花／つつじ

厳しい風雪に耐え新緑の山野に美しく咲く「つつじ」は、町民のたくましさと心のやさしさを表しています。町制施行の記念事業として町民の皆さまから公募し入選したものです。

町の木／けやき

どっしりと大地に根を張り大空高く繁る「けやき」の姿は、町の伝統のゆかしさと未来への発展を表しています。町制施行の記念事業として町民の皆さまから公募し入選したものです。

町の鳥／ウグイス

数多く生息する鳥類の中でも高尚でさわやかな「うぐいす」の鳴き声は、町民の心をなごませ町の自然の良さを表しています。町制施行の記念事業として町民の皆さまから公募し入選したものです。

町の魚／アブラメ

本町沖で獲れる魚介類の消費拡大や観光漁業を含め、より一層の漁業振興を図るために制定されました。平成5年10月に町内全世帯を対象に実施したアンケート結果と年間を通じて漁業者や遊漁船等で多く漁獲されていることから町の魚に選ばれました。

シンボルキャラクター

［平成12年12月1日制定］

message
はしかみ町民メッセージ

海の青、山の緑、つつじの赤、そばの白　自然豊かな階上町
　階上小学校　6年　工藤勇太さん

海や山の自然が豊かで食べ物もおいしくて、やさしい人が多い町
　石鉢小学校　6年　地代所悠来さん

日本一の巨木や青森県一の古木がたくさんあり、
階上町は巨木や古木の宝庫
　赤保内小学校　6年　蛭子穂香さん

海があり、山もあり、みんなが明るくすごす町
　道仏小学校　6年　天摩明翔さん

ゴミ拾い、ボランティアの輪広がる心温かな町
　階上中学校　3年　廣瀬鴻志さん

青森県で一番最初に昇る陽が美しい町
　道仏中学校　2年　長根陽琥さん

豊かな自然を持ち、笑顔と活気が溢れる居心地のよい町
　耳ケ吠東　釜谷駿汰さん

山海がもたらす自然豊かな景色と、豊かな恵みの幸あふれる階上町
　石鉢　寺澤凜さん

コンパクトという良さを活かし、より魅力ある資源・人を育める町
　野場中　古屋敷裕大さん

かわいいリスや、キツツキに時々会える町
子どもと夜にパノラマの星空が見れる町
　鳥屋部　宮崎季子さん

豊かな海と山の自然に心癒され、皆が支え合い共に生きる町
　荒谷　角地山純子さん

青森県で朝日が最初に見れる町　海も山も近い自然豊かな町
そして全国屈指の消防団がある町！
　小舟渡　黒坂聖さん

白い波の打ち引きと　緑の揺らぎが呼び起こす　心の躍動する町
　赤保内　桑原一夫さん

この町に来て一番のお気に入りは階上岳でした
「温かい山で決まった終の家」
　野場中　黒川捷さん

ドローンで撮影した階上町全景／海・里・山がバランスよく立地している

2024階上町▶町勢要覧

●発行／階上町
●編集／階上町総務課
　〒039-1201 青森県三戸郡階上町大字道仏字天当平1-87　TEL：0178-88-2111（代）
●企画制作／株式会社テクノス
　〒039-1114 青森県八戸市北白山台二丁目4-23　TEL：0178-27-6565

階上町ホームページ